



大腸(結腸・直腸)がんの 病期分類

局在コード

《結腸・直腸》

	ICD-O 局在	取扱い規約 (第9版)	診療情報所見	備考
腫瘍占拠部位	C18.0	C	盲腸 Cecum 回盲弁 回盲接合部	
	C18.2	A	上行結腸 Ascending colon	
	C18.3		右結腸曲 Hepatic flexure of colon	
	C18.4	T	横行結腸 Transverse colon	
	C18.5		左結腸曲 Splenic flexure of colon	
	C18.6	D	下行結腸 Descending colon	
	C18.7	S	S状結腸 Sigmoid colon	
	C18.8		結腸の境界部病巣	
	C18.9		結腸, NOS 右結腸, NOS 左結腸, NOS	右結腸, NOS、左結腸, NOSは、ICD-O3では、それぞれC18.2(上行結腸)、C18.6(下行結腸)に割り当てられているが、わが国では、盲腸を含んで右結腸と表現したり、S状結腸も含めて左結腸と表現したりすることを考慮し、がん登録では、C18.9(結腸NOS)を割り当てる。
	C19.9	RS	直腸S状結腸移行部 Rectosigmoid junction 直腸S状結腸 結腸および直腸 骨盤直腸移行部	取扱い規約のRS(直腸S状部)とUICC TNMのrectosigmoid junctionは解剖学的に同一ではないが、規約のRS(直腸S状部)はC19.9に割り当てることとした。
C20.9	Ra Rb R, NOS	直腸, NOS Rectum 直腸膨大部 Rectal Ampulla	取扱い規約では、Ra(上部直腸)とRb(下部直腸)に分けている。	

形態コード(病理組織) 《結腸・直腸》

● UICCの対象は、癌腫(Carcinoma)のみ

以下の悪性腫瘍については、別のUICC病期分類を適用

- 1) 神経内分泌腫瘍(旧:カルチノイド)
- 2) GIST(消化管間質腫瘍)
- 3) 1)/2)以外の間質性腫瘍(平滑筋肉腫など)
- 4) 悪性リンパ腫

内分泌細胞癌(NEC, G3)(8246/3)は、癌腫の扱い

● がん登録での特別な追加ルール

- 分化度のみが記載されている場合、
8140/3(腺癌)と解釈してコードする。

高分化癌 → 8140/31

中分化癌 → 8140/32

低分化癌 → 8140/33

- m癌と記載されている場合、性状コード/2で対応

形態コード(病理組織) 《結腸・直腸》

病理組織名(日本語)	英語表記	形態コード
悪性上皮性腫瘍	<i>Malignant epithelial tumor</i>	
腺癌, NOS	Adenocarcinoma, NOS	8140/3
乳頭腺癌	Papillary adenoca. (pap)	8260/3
管状腺癌	Tubular adenoca. (tub)	8211/3
高分化型	well differentiated type (tub1)	8211/31
中分化型	moderately differentiated type (tub2)	8211/32
低分化腺癌	Poorly differentiated adenoca. (por)	8140/33
充実型	solid type (por1)	8140/33
非充実型	non-solid type (por2)	8140/33
粘液癌	Mucinous adenoca. (muc)	8480/3
印環細胞癌	Signet ring cell ca. (sig)	8490/3
髄様癌	Medullary ca.	8510/3
腺扁平上皮癌	Adenosquamous ca. (asc)	8560/3
扁平上皮癌	Squamous cell ca. (scc)	8070/3
高分化癌 ※1	well differentiated ca.	8140/31
中分化癌 ※1	moderately differentiated carcinoma	8140/32
低分化癌 ※1	poorly differentiated carcinoma	8140/33
カルチノイド腫瘍※2	Carcinoid tumor (NET G1 、 NETG2 相当)	8240/3
NET G1 ※2	NET G1	8240/31
NET G2 ※2	NET G2	8249/32

※1 腺癌であることを前提に、**8140/3**をコードする。

※2 カルチノイド腫瘍、NETG1、NETG2は、神経内分泌腫瘍として分類。

形態コード(病理組織) 《結腸・直腸》

その2

規約
第9版
(2018)

部位別
TEXT
22/05

病理組織名(日本語)	英語表記	形態コード
悪性上皮性腫瘍(つづき)	<i>Malig. epithelial tumor</i>	
内分泌細胞癌	Endocrine cell ca. (NEC G3相当)	8246/3
NEC G3(小細胞癌)	Small cell NEC	8041/3
NEC G3(大細胞癌)	Large cell NEC	8013/3
MANEC	Mixed adenoneuroendocrine ca.	8244/3
腺腫性ポリープ内上皮内腺癌 ※1	Adenoca. in situ in adenomatous polyp	8140/2
腺腫性ポリープ内腺癌 ※1	Adenoca. in adenomatous polyp	8140/3
管状絨毛状腺腫内腺癌	Adenoca. in tubulovillous adenoma	8140/3
絨毛状腺腫内腺癌	Adenoca. in villous adenoma	8140/3
大腸腺腫性ポリポーシス内腺癌	Adenoca. in adenomatous polyposis coli	8220/3
非上皮性腫瘍	<i>Non-Epithelial tumor</i>	
平滑筋性腫瘍	Myogenic tumor	
神経性腫瘍	Neurogenic tumor	
消化管間質腫瘍	Gastrointestinal Stromal Tumor	8936/3
脂肪腫・脂肪腫症	Lipoma & Lipomatosis	
脈管性腫瘍	Vascular tumor	
リンパ腫	Lymphoma	

※1 腺腫内腺癌(上皮内癌を含む)は、腺腫内にある癌腫の組織を優先してコードする。

形態コード(病理組織)《結腸・直腸》

病理組織名(日本語)	英語表記	形態コード
上皮性腫瘍	<i>Epithelial tumours</i>	
良性上皮性腫瘍&前癌状態	Benign epithelial tumours and precursors	
鋸歯状病変とポリープ	Colorectal serrated lesions and polyps	
鋸歯状異形成、低異型度	Serrated dysplasia, low grade	8213/0
鋸歯状異形成、高異型度	Serrated dysplasia, high grade	8213/2
過形成性ポリープ	Hyperplastic polyp	—
過形成性ポリープ、微小水泡型	Hyperplastic polyp, microvesicular type	—
過形成性ポリープ、杯細胞豊富型	Hyperplastic polyp, goblet cell-rich type	—
鋸歯状病変	Sessile serrated lesion (SSL)	—
異形成を伴う鋸歯状病変	Sessile serrated lesion with dysplasia	—
通常型鋸歯状腺腫	Traditional serrated adenoma	8213/0
鋸歯状腺腫、分類不能	Serrated adenoma, unclassified	8213/0
通常型腺腫	Conventional colorectal adenoma	
腺腫様ポリープ、低異型度異形成	Adenomatous polyp, low-grade dysplasia	8210/0
腺腫様ポリープ、高異型度異形成	Adenomatous polyp, high-grade dysplasia	8210/2
管状腺腫、低異型度	Tubular adenoma, low grade	8211/0
管状腺腫、高異型度	Tubular adenoma, high grade	8211/2
絨毛状腺腫、低異型度	Villous adenoma, low grade	8261/0
絨毛状腺腫、高異型度	Villous adenoma, high grade	8261/2
管状絨毛状腺腫、低異型度	Tubulovillous adenoma, low grade	8263/0
管状絨毛状腺腫、高異型度	Tubulovillous adenoma, high grade	8263/2

形態コード(病理組織)《結腸・直腸》

病理組織名(日本語)	英語表記	形態コード
上皮性腫瘍(つづき)	<i>Epithelial tumours</i>	
良性上皮性腫瘍&前癌状態	Benign epithelial tumours and precursors	
炎症性腸疾患関連異形成	Inflammatory bowel disease-associated dysplasia of the colorectum	—
腺上皮内腫瘍、低異型度	Glandular intraepithelial neopl., low grade	8148/0
腺上皮内腫瘍、高異型度	Glandular intraepithelial neopl., high grade	8148/2
悪性上皮性腫瘍	Malignant epithelial tumours	
腺癌	Adenocarcinoma, NOS	8140/3
鋸歯状腺癌	Serrated adenocarcinoma	8213/3
腺腫様腺癌	Adenoma-like adenocarcinoma	8262/3
微小乳頭状腺癌	Micropapillary adenocarcinoma	8265/3
粘液性腺癌	Mucinous adenocarcinoma	8480/3
低粘着癌	Poorly cohesive carcinoma	8490/3
印環細胞癌	Signet-ring cell carcinoma	8490/3
髄様腺癌	Medullary adenocarcinoma	8510/3
腺扁平上皮癌	Adenosquamous carcinoma	8560/3
癌腫、分類不能	Carcinoma, undifferentiated, NOS	8020/3
肉腫様成分を伴う癌腫	Carcinoma with sarcomatoid component	8033/3

形態コード(病理組織)《結腸・直腸》

病理組織名(日本語)	英語表記	形態コード
上皮性腫瘍(つづき)	<i>Epithelial tumours</i>	
悪性上皮性腫瘍(つづき)	Malignant epithelial tumours	
神経内分泌腫瘍	Colorectal neuroendocrine neoplasms	
神経内分泌腫瘍、NOS	Neuroendocrine tumour NOS	8240/3
神経内分泌癌、NOS	Neuroendocrine carcinoma NOS	8246/3
混合性神経内分泌 -非神経内分泌腫瘍	Mixed neuroendocrine -non-neuroendocrine neoplasm (MiNEN)	8154/3
NET G1	Neuroendocrine tumour, grade 1	8240/3
NET G2	Neuroendocrine tumour, grade 2	8249/3
NET G3	Neuroendocrine tumour, grade 3	8249/3
L細胞腫瘍	L-cell tumour	8152/3
グルカゴン様ペプチド産生腫瘍	Glucagon-like peptide-producing tumour	8152/3
PP/PPY産生腫瘍	PP/PYY-producing tumour	8152/3
クロム親和性細胞腫瘍	Enterochromaffin-cell carcinoid	8241/3
セロトニン産生腫瘍	Serotonin-producing tumour	8241/3
大細胞神経内分泌癌	Large cell neuroendocrine carcinoma	8013/3
小細胞神経内分泌癌	Small cell neuroendocrine carcinoma	8041/3

ポリープ内癌の形態コード

- 2018年症例までは、
「ポリープ内に癌があるという状態」を優先してコード。
- 2019年症例からは、
「ポリープ内にある癌の組織型」を優先してコード。

よって、8210/、8261/、8263/ のコードは
使用しない。

〔例〕 ポリープ内の管状腺癌

2018年症例までは、 8210/3 (状態を優先)

2019年症例からは、 8211/3 (組織型を優先)

結腸・直腸がんに関する特別ルール

- 組織型の記載のない癌腫は、「腺癌」と考える
- 粘膜内癌は、上皮内癌扱いをする
- 領域リンパ節は、がん登録独自ルール
(取扱い規約とはかなり異なる)
- 遠隔転移の扱いが取扱い規約と異なる

T分類(UICC第8版) 《結腸・直腸》

TX 原発腫瘍の評価が不可能

T0 原発腫瘍が認められない

Tis 上皮内癌：粘膜固有層に浸潤する癌 (M)

T1 粘膜下層にとどまる腫瘍 (SM)

T2 固有筋層にとどまるもの (MP)

T3 漿膜下組織に浸潤する腫瘍 (SS)

あるいは漿膜を有さない部位で、
傍腸管・傍直腸組織へ浸潤しているもの (A)

T4 他臓器/組織に直接浸潤する腫瘍、
あるいは浸潤が臓側漿膜を越えるもの

T4a 臓側腹膜を貫通しているもの (SE)

T4b 直接他臓器・組織にまで及ぶもの (SI)、(AI)

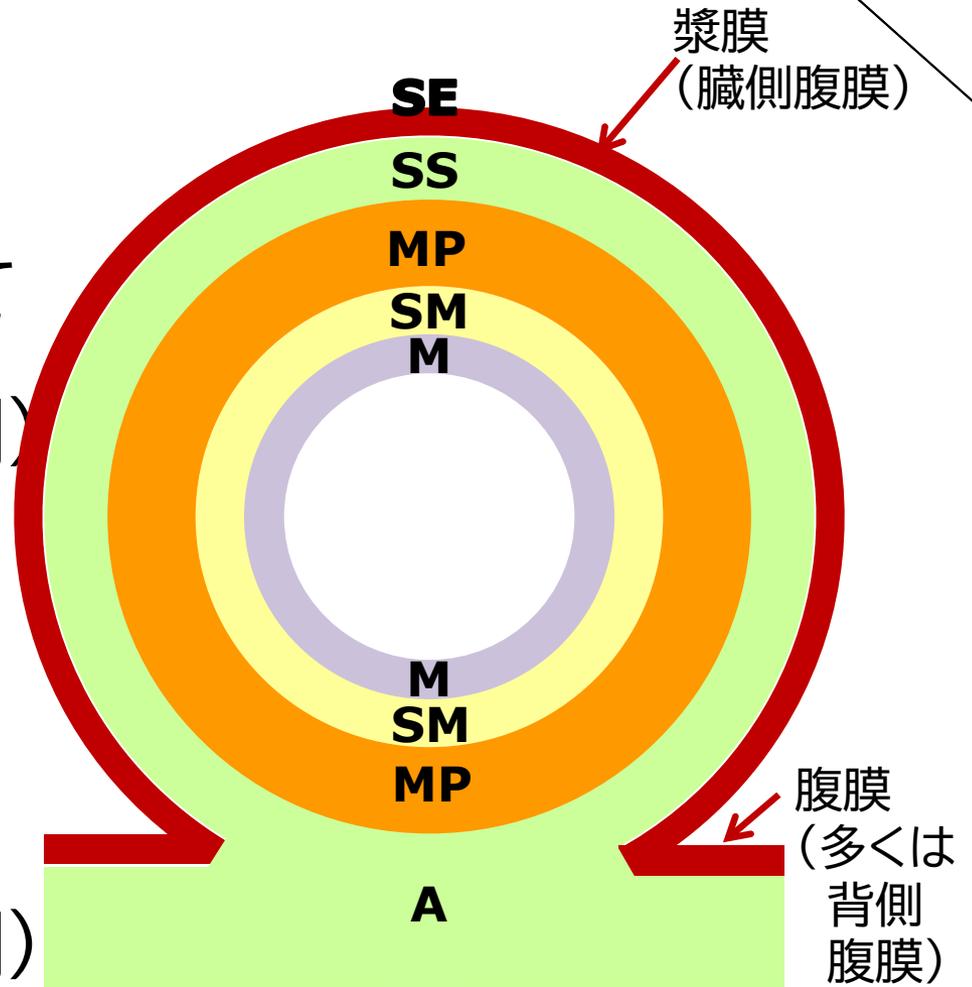
漿膜のある部位 / ない部位の壁深達度

- 漿膜のある部位

- MPの外には、
SS→SE→SI
(SEを越えて隣接臓器・組織に浸潤)

- 漿膜のない部位

- MPの外は、
A→AI (Aを越えて隣接臓器・組織に浸潤)



N分類(UICC第8版) 《結腸・直腸》

NX 領域リンパ節転移の有無が不明なもの

N0 領域リンパ節転移なし

N1 1～3個の領域リンパ節転移

N1a 1個の領域リンパ節転移

N1b 2～3個の領域リンパ節転移

N1c **Tumor Deposits**

N2 4個以上の領域リンパ節転移

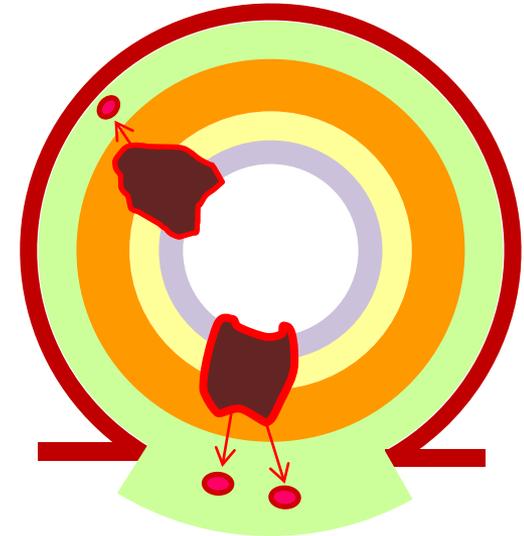
N2a 4～6個の領域リンパ節転移

N2b 7個以上の領域リンパ節転移

- Tumor Deposits

腸管周囲脂肪組織(漿膜下層あるいは漿膜のない傍結腸・傍直腸結合組織)のリンパ流路に独立して存在する腫瘍結節(Deposits)

1)原発巣からは非連続、2)リンパ節構造・脈管・神経構造が特定できない、同時に領域リンパ節転移がない場合のみ、この表現を用いる



UICC領域リンパ節(規約表記)《結腸・直腸》

亜部位	UICC TNM分類 所属リンパ節名	取扱い規約(第8版) 対応する リンパ節番号	取扱い規約対応 リンパ節名	
			腸管傍リンパ節	結腸傍
虫垂 (V)	回結腸	#201 ~203	腸管傍リンパ節 #201	結腸傍
			中間リンパ節 #202	回結腸
			主リンパ節 #203	回結腸根
盲腸 (C)	回結腸	#201 ~203	腸管傍リンパ節 #201	結腸傍
			中間リンパ節 #202	回結腸
			主リンパ節 #203	回結腸根
	右結腸	#211 ~213	腸管傍リンパ節 #211	結腸傍
			中間リンパ節 #212	右結腸
			主リンパ節 #213	右結腸根
上行結腸 (A)	回結腸	#201 ~203	腸管傍リンパ節 #201	結腸傍
			中間リンパ節 #202	回結腸
			主リンパ節 #203	回結腸根
	右結腸	#211 ~213	腸管傍リンパ節 #211	結腸傍
			中間リンパ節 #212	右結腸
			主リンパ節 #213	右結腸根
	中結腸	#221 ~223	腸管傍リンパ節 #221	結腸傍
			中間リンパ節 #222	中結腸
			主リンパ節 #223	中結腸根
肝曲	中結腸	#221 ~223	腸管傍リンパ節 #221	結腸傍
			中間リンパ節 #222	中結腸
			主リンパ節 #223	中結腸根
	右結腸	#211 ~213	腸管傍リンパ節 #211	結腸傍
			中間リンパ節 #212	右結腸
			主リンパ節 #213	右結腸根
横行結腸 (T)	右結腸	#211 ~213	腸管傍リンパ節 #211	結腸傍
			中間リンパ節 #212	右結腸
			主リンパ節 #213	右結腸根
	中結腸	#221 ~223	腸管傍リンパ節 #221	結腸傍
			中間リンパ節 #222	中結腸
			主リンパ節 #223	中結腸根
	左結腸	#231 ~232	腸管傍リンパ節 #231	結腸傍
			中間リンパ節 #232	左結腸
			主リンパ節 #233	左結腸根
			下腸間膜	下腸間膜根

亜部位	UICC TNM分類 所属リンパ節名	取扱い規約(第8版) 対応する リンパ節番号	取扱い規約対応 リンパ節名	
			腸管傍リンパ節	結腸傍
脾曲	中結腸	#221 ~223	腸管傍リンパ節 #221	結腸傍
			中間リンパ節 #222	中結腸
			主リンパ節 #223	中結腸根
下行結腸 (D)	左結腸	#231 ~232	腸管傍リンパ節 #231	結腸傍
			中間リンパ節 #232	左結腸
			主リンパ節 #233	左結腸根
S状結腸 (S)	S状結腸	#241 ~242, #252	腸管傍リンパ節 #241	結腸傍
			中間リンパ節 #242	S状結腸
			中間リンパ節 #252	下腸間膜幹
直腸 (RS, Ra, Rb)	左結腸	#231 ~232	腸管傍リンパ節 #231	結腸傍
			中間リンパ節 #232	左結腸
			主リンパ節 #233	左結腸根
	上直腸	#251 ~252	腸管傍リンパ節 #251	直腸傍
			中間リンパ節 #252	下腸間膜
	下腸間膜	#251,#253	腸管傍リンパ節 #251	直腸傍
			中間リンパ節 #253	下腸間膜根
	直腸S状結腸	#252	腸管傍リンパ節 #252	直腸傍
			中間リンパ節 #252	下腸間膜
	直腸 (RS, Ra, Rb)	上直腸	#251 ~252	腸管傍リンパ節 #251
中間リンパ節 #252				下腸間膜
中直腸		#251	腸管傍リンパ節 #251	直腸傍
			中間リンパ節 #251	直腸傍
下直腸		#251	腸管傍リンパ節 #251	直腸傍
			中間リンパ節 #251	直腸傍
下腸間膜		#253	主リンパ節 #253	下腸間膜根
			腸管傍リンパ節 #253	下腸間膜根
内腸骨		#263	側方リンパ節 #263	内腸骨
			腸管傍リンパ節 #263	内腸骨
直腸間膜 (直腸周囲)	#251	腸管傍リンパ節 #251	直腸傍	
		腸管傍リンパ節 #251	直腸傍	
外側仙骨	#260	その他 #260	外側仙骨	
		腸管傍リンパ節 #260	外側仙骨	
仙骨前	#270	その他 #270	正中仙骨	
		腸管傍リンパ節 #270	正中仙骨	
仙骨岬 (Gerota)	#280	その他 #280	正中仙骨	
		腸管傍リンパ節 #280	正中仙骨	

領域リンパ節(UICC第8版)

取扱い規約		UICC TNM 分類(8版)領域リンパ節					
リンパ節名称	番号	虫垂	盲腸	上行結腸	肝曲	横行結腸	脾曲
		回結腸	回結腸 右結腸	回結腸 右結腸 中結腸	右結腸 中結腸	右結腸、中結腸 左結腸、下腸間膜	中結腸 左結腸 下腸間膜
結腸傍リンパ節	201	領域	領域	領域			
	211		領域	領域	領域	領域	
	221			領域	領域	領域	領域
回結腸リンパ節	202	領域	領域	領域			
右結腸リンパ節	212		領域	領域	領域	領域	
中結腸リンパ節右枝	222r			領域	領域	領域	領域
中結腸リンパ節左枝	222l			領域	領域	領域	領域
回結腸根リンパ節	203	領域	領域	領域			
右結腸根リンパ節	213		領域	領域	領域	領域	
中結腸根リンパ節	223			領域	領域	領域	領域
上腸間膜根リンパ節	214						
大動脈周囲リンパ節	216						
幽門下リンパ節	206						
胃大網リンパ節	204						
脾門リンパ節	210						
結腸傍リンパ節	231					領域	領域
	241-1						
	241-2						
	241-t						
直腸傍リンパ節	251						
左結腸リンパ節	232					領域	領域
S状結腸リンパ節	242-1						
	242-2						
下腸間膜幹リンパ節	252						
下腸間膜根リンパ節	253					領域	領域
大動脈周囲リンパ節	216						

取扱い規約		UICC TNM 分類(8版)領域リンパ節		
リンパ節名称	番号	下行結腸	S状結腸	直腸
		左結腸 下腸間膜	左結腸、下腸間膜 S状結腸、直腸 S状結腸 上直腸	下腸間膜、上直腸、中直腸 下直腸、内腸骨、直腸間膜(直腸傍) 外側仙骨、仙骨前、仙骨岬(Gerota)
結腸傍リンパ節	231	領域	領域	
	241-1		領域	
	241-2		領域	
	241-t		領域	
直腸傍リンパ節	251		領域	領域
左結腸リンパ節	232	領域	領域	
S状結腸リンパ節	242-1		領域	
	242-2		領域	
下腸間膜幹リンパ節	252		領域	領域
下腸間膜根リンパ節	253	領域	領域	領域
大動脈周囲リンパ節	216			
直腸傍リンパ節	251		領域	領域
右内腸骨中核リンパ節	263Pr			領域
左内腸骨中核リンパ節	263Pl			領域
右内腸骨末梢リンパ節	263Dr			領域
左内腸骨末梢リンパ節	263Dl			領域
右閉鎖リンパ節	283r			
左閉鎖リンパ節	283l			
右総腸骨リンパ節	273r			
左総腸骨リンパ節	273l			
右外腸骨リンパ節	293r			
左外腸骨リンパ節	293l			
右外側仙骨リンパ節	260r			領域
左外側仙骨リンパ節	260l			領域
正中仙骨リンパ節	270			領域
大動脈分岐部リンパ節	280			領域
右巣径リンパ節	292r			
左巣径リンパ節	292l			

大腸のリンパ節 (取扱い規約第9版)

- 血管系に沿って
- 腸管傍リンパ節
- 中間リンパ節
- 主リンパ節

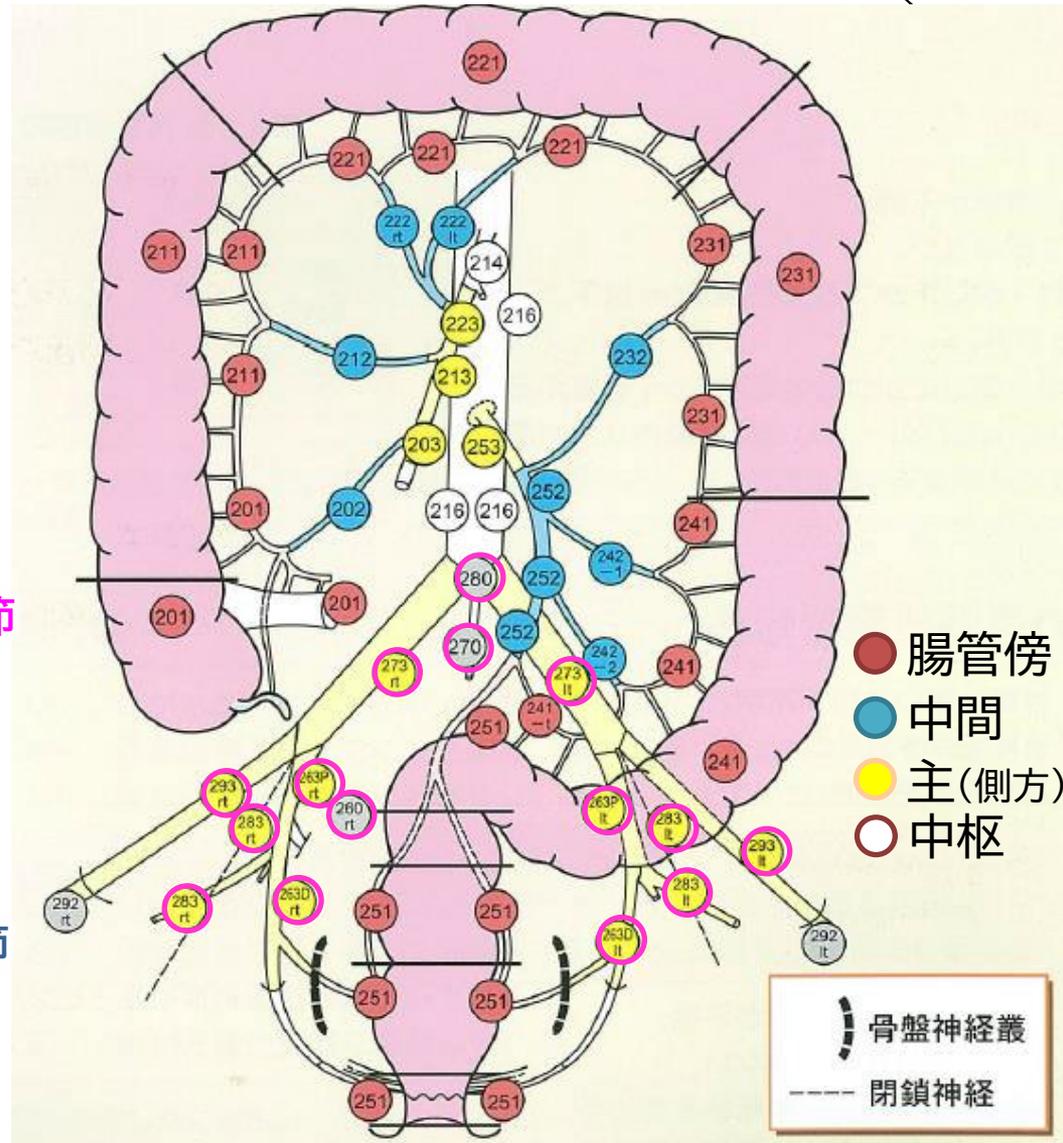
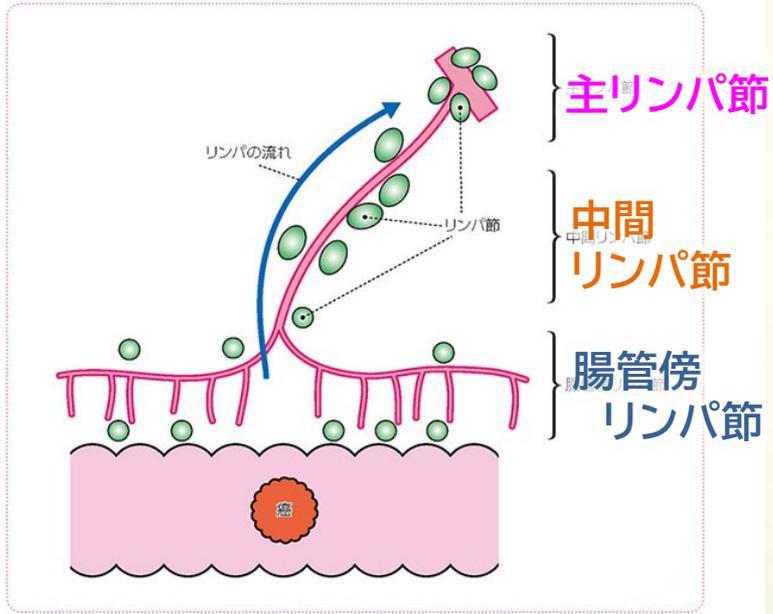
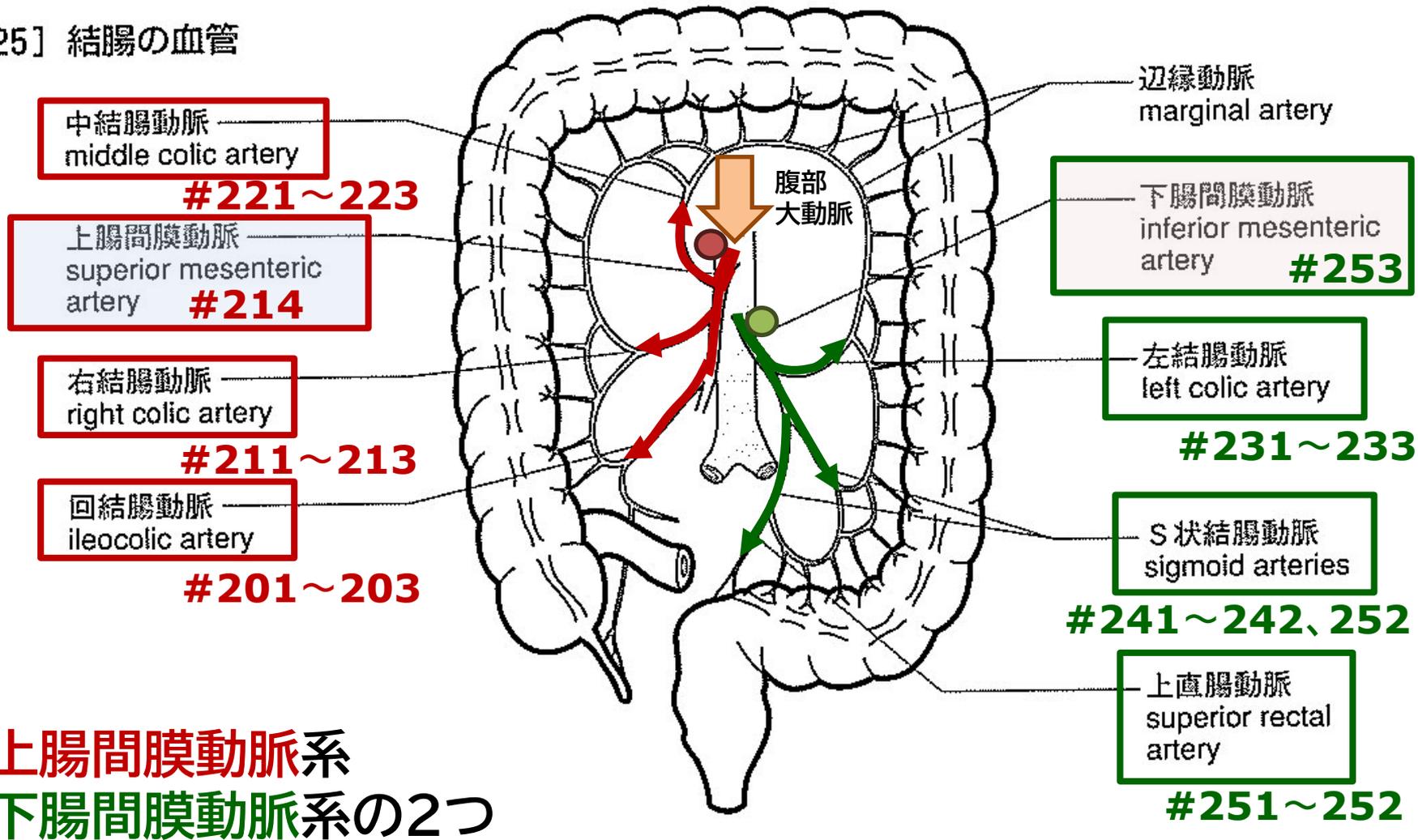


図4 大腸のリンパ流



結腸の血管とリンパ節

[5-25] 結腸の血管



M分類(UICC第8版) 《結腸・直腸》

M0 遠隔転移なし

M1 遠隔転移あり

M1a **1臓器に遠隔転移**
(腹膜転移を伴わないもの)

M1b **2臓器以上に遠隔転移**
(腹膜転移を伴わないもの)

M1c **腹膜転移**
(他の臓器への転移の有無を問わない)

腹膜転移(播種)がある場合、**M1c** として評価

ステージ(UICC第8版)《結腸・直腸》

		N0	N1			N2	
			N1a	N1b	N1c	N2a	N2b
Tis		0					
T1		I	ⅢA			ⅢA	ⅢB
T2		I	ⅢA			ⅢB	
T3		ⅡA	ⅢB			ⅢB	ⅢC
T4	T4a	ⅡB	ⅢB			ⅢC	
	T4b	ⅡC	ⅢC			ⅢC	
M1	M1a	ⅣA	ⅣA			ⅣA	
	M1b	ⅣB	ⅣB			ⅣB	
	M1c	ⅣC	ⅣC			ⅣC	

進展度(UICC第8版準拠)《結腸・直腸》

UICC 第8版		N0	N1			N2	
			N1a	N1b	N1c	N2a	N2b
Tis		上皮内					
T1		限局	領域 リンパ節転移			領域 リンパ節転移	
T2		限局	領域 リンパ節転移			領域 リンパ節転移	
T3		限局	領域 リンパ節転移			領域 リンパ節転移	
T4	T4a	隣接 臓器浸潤	隣接 臓器浸潤			隣接 臓器浸潤	
	T4b						
M1	M1a	遠隔転移	遠隔転移			遠隔転移	
	M1b						
	M1c						

UICCと取扱い規約第9版の相違《大腸》

- 壁外非連続性癌進展病巣の扱い
- **T分類**: **T1**に亜分類が存在
壁深達度の決定方法
- **N分類**: 領域(領域)リンパ節の範囲
N分類の亜分類の決定方法
- **M分類**: 腹膜転移の場合の亜分類
- 虫垂に発生した癌腫は、**UICC TNM分類**に従う
- 肛門管に発生した癌腫は、
 - 直腸型腺癌は、取扱い規約を用いる
 - 扁平上皮癌・肛門腺癌は、**UICC TNM分類**を用いる

壁深達度(取扱い規約第9版)《大腸》

- TX** 壁深達度の評価ができない。
- T0** 癌を認めない。
- Tis** 癌が粘膜内(**M**)にとどまり、粘膜下層に及んでいない
- T1** 癌が粘膜下層(**SM**)までにとどまり、固有筋層に及んでいない。
- T1a** 癌が粘膜下層(**SM**)までで、浸潤距離が1000 μ m未満
- T1b** 癌が粘膜下層(**SM**)までで、浸潤距離が1000 μ m以上かつ固有筋層に及んでいない。
- T2** 癌が固有筋層(**MP**)まで浸潤し、これを越えていない。
- T3** 癌が固有筋層を越えて浸潤し、漿膜を有する部位では、癌が漿膜下層(**SS**)までにとどまる。
あるいは漿膜を有しない部位では、癌が外膜(**A**)までにとどまる。
- T4** 癌が漿膜表面に接しているかまたは露出(**SE**)、
あるいは直接他臓器に浸潤している(**SI/AI**)
- T4a** 癌が漿膜表面に接しているかまたは漿膜表面に露出している(**SE**)。
- T4b** 癌が直接他臓器に浸潤している(**SI/AI**)。

※ 脈管・神経侵襲病巣は、壁深達度で判定

壁外非連続性癌進展病巣(EX)《大腸》

- リンパ節構造のない壁外非連続性癌病巣(EX)
 - ① 脈管／神経侵襲病巣
 - ② 上記以外の癌巣(**ND**:tumor nodule)

非連続性癌進展病巣	取扱い規約での分類への反映
①静脈侵襲(v)	T 分類
①リンパ管侵襲(ly)	T 分類
①神経侵襲(Pn)	T 分類
② ND (腫瘍結節:tumor nodule)	N 分類

※ **UICC**では、①の病巣のうち、静脈/リンパ管侵襲は、**TNM**に影響しない。
②の病巣のうち、病理医がリンパ節と判断したもののみ**N**分類に反映

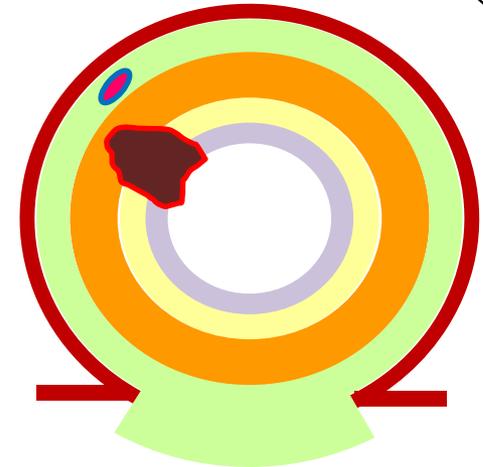
T分類の記載例(規約第9版)

《大腸》

規約
第9版
(2018)

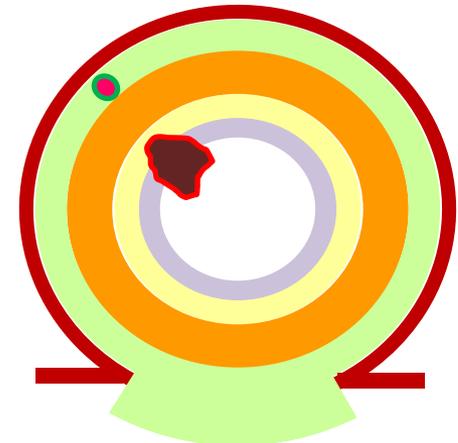
例1) 癌浸潤が固有筋層(**MP**)まで、
静脈侵襲が漿膜下組織(**SS**)に
見られた

T3(v) – MP



例2) 癌浸潤が粘膜下層(**SM**)まで、
リンパ管侵襲が漿膜下組織(**SS**)に
認められた

T3(ly) – SM



領域リンパ節転移(規約第9版)《大腸》

- 腫瘍占拠部位と血管の関係により、
腸管傍リンパ節、中間リンパ節、主リンパ節、側方リンパ節に区分

N0 リンパ節転移なし

N1 腸管傍と中間リンパ節の
転移総数が3個以下

N1a 転移個数が1個

N1b 転移個数が2-3個

N2 腸管傍と中間リンパ節の
転移総数が4個以上

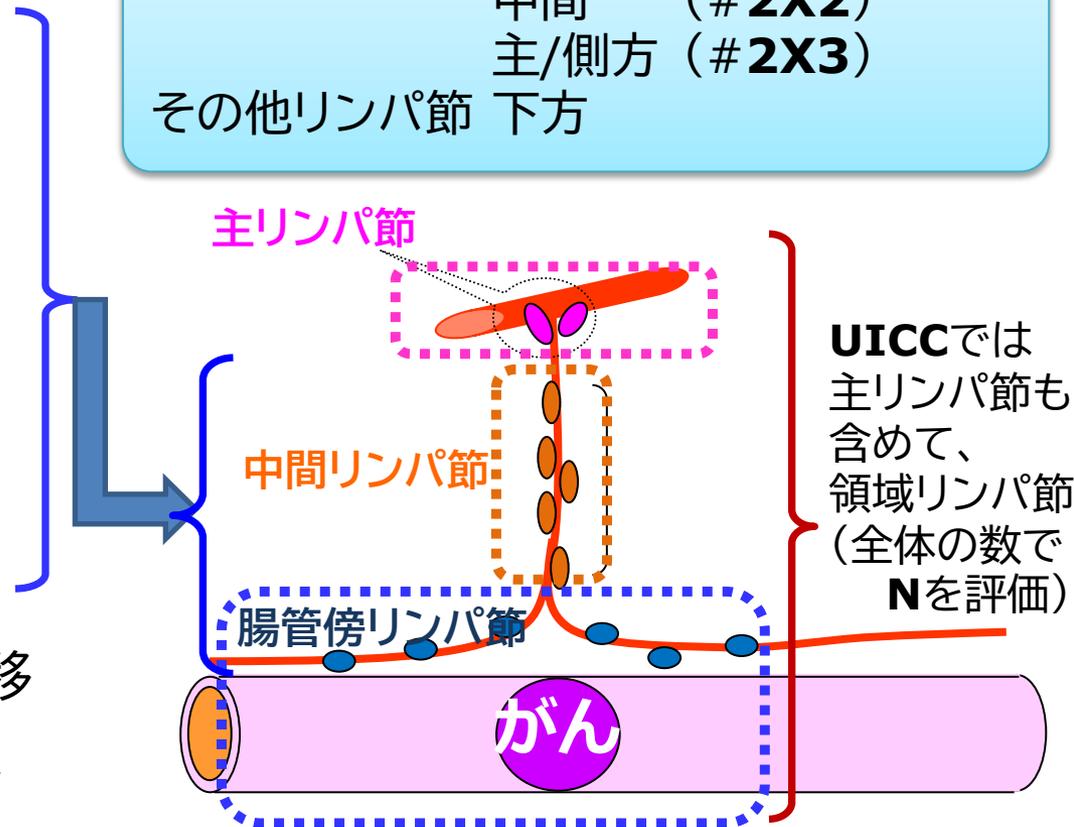
N2a 転移個数が4-6個

N2b 転移個数が7個以上

N3 主リンパ節に転移
または 下部直腸癌(**Rb**)で
主あるいは側方リンパ節に転移

※ 脈管・神経侵襲病巣は、壁深達度で判定

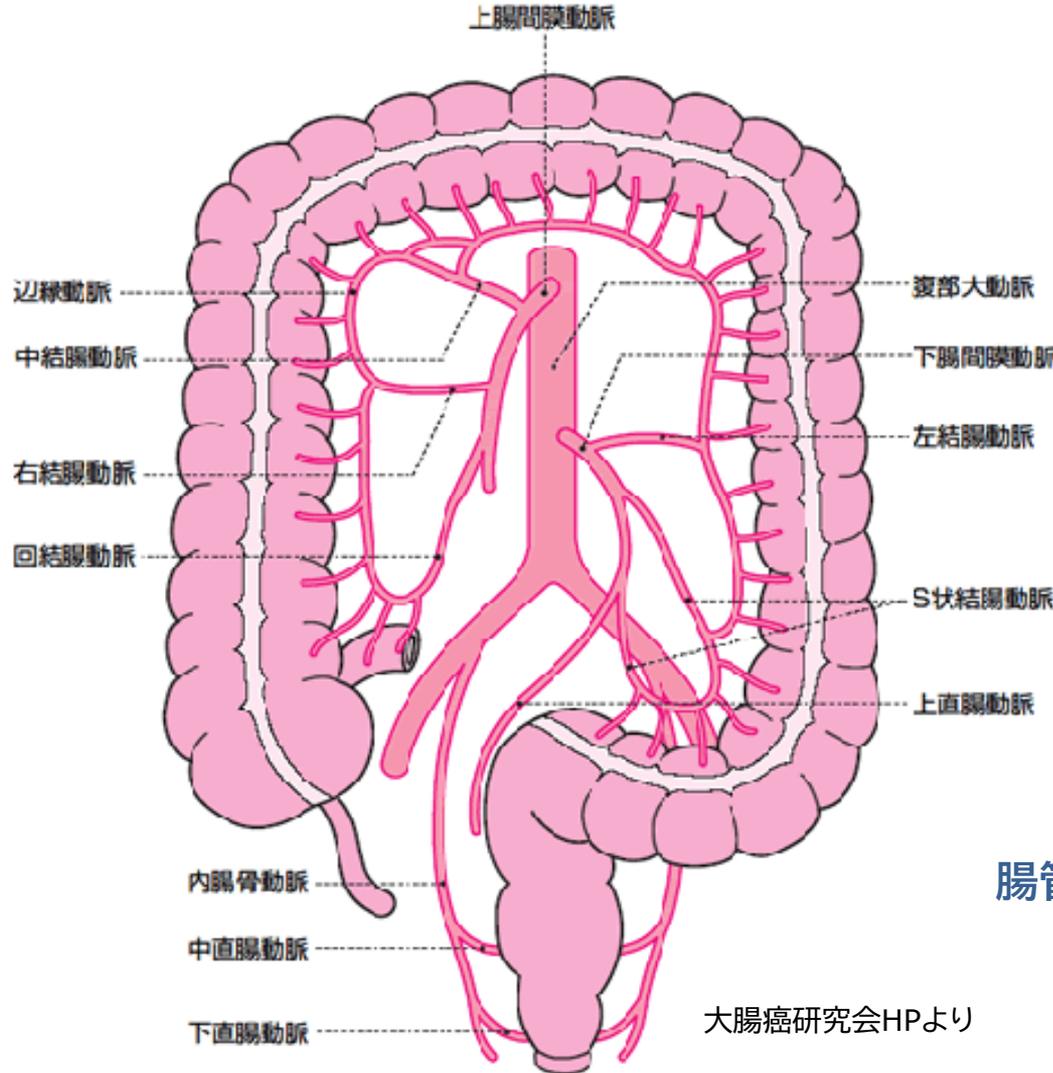
領域リンパ節	腸管傍 (#2X1)
	中間 (#2X2)
	主/側方 (#2X3)
その他リンパ節	下方



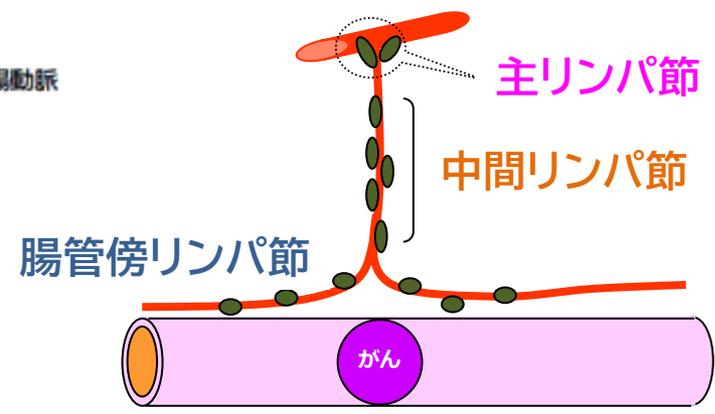
UICCでは
主リンパ節も
含めて、
領域リンパ節
(全体の数で
Nを評価)

リンパ節と血管の関係(規約第9版)《大腸》

図 3. 大腸の血管



		腸管傍リンパ節	中間リンパ節	主リンパ節 (側方リンパ節)	主リンパ節より 中核のリンパ節	その他のリンパ節
上腸間膜動脈系	回結腸動脈	201 結腸傍リンパ節	202 回結腸リンパ節	203 回結腸根リンパ節		
	右結腸動脈	211 結腸傍リンパ節	212 右結腸リンパ節	213 右結腸根リンパ節	214 上腸間膜リンパ節	
	中結腸動脈右枝	221 結腸傍リンパ節	222-rt 中結腸リンパ節-右枝	223 中結腸根リンパ節	216 大動脈周囲リンパ節	
	中結腸動脈左枝	221 結腸傍リンパ節	222-lt 中結腸リンパ節-左枝	223 中結腸根リンパ節		206 脾門下リンパ節
下腸間膜動脈系	左結腸動脈	231 結腸傍リンパ節	232(左結腸リンパ節)		216 大動脈周囲リンパ節	204 胃大網リンパ節 210 脾門リンパ節
	S状結腸動脈	第1	241-1 結腸傍リンパ節	242-1 第1S状結腸リンパ節	253 下腸間膜根リンパ節	
		第2	241-2 結腸傍リンパ節	242-2 第2S状結腸リンパ節		
	最下S状結腸動脈	241-r 結腸傍リンパ節				
	上直腸動脈	251 直腸傍リンパ節	252 下腸間膜幹リンパ節			
腸骨動脈系	中直腸動脈	251 直腸傍リンパ節				
	内腸骨動脈			263D(rt-lt) 内腸骨末梢リンパ節 263P(rt-lt) 内腸骨中核リンパ節		
	総腸骨動脈			273(rt-lt) 総腸骨リンパ節	216 大動脈周囲リンパ節	200(rt-lt) 外側仙骨リンパ節
	閉鎖動脈			283(rt-lt) 閉鎖リンパ節		270 正中仙骨リンパ節 280 大動脈分枝部リンパ節
	外腸骨動脈			293(rt-lt) 外腸骨リンパ節		292(rt-lt) 鼠径リンパ節



大腸癌研究会HPより

遠隔転移(規約第9版) 《大腸》

M0 遠隔転移を認めない。

M1 遠隔転移を認める。

M1a 1臓器に遠隔転移を認める。

M1b 2臓器以上に遠隔転移を認める。

M1c 腹膜転移を認める

M1c1 腹膜転移のみ

M1c2 腹膜転移と他臓器転移

※ 肝転移、肺転移、腹膜転移の場合は、それぞれの転移程度を付記する。

その他(規約第9版) 《大腸》

●肝転移

H0 肝転移を認めない

H1 肝転移4個以下かつ最大径が5cm以下

H2 **H1**、**H3**以外

H3 肝転移巣5個以上かつ最大径が5cmを超える

●腹膜転移

P0 腹膜転移を認めない

P1 近接腹膜にのみ播種性転移を認める

P2 遠隔腹膜に少数の播種性転移を認める

P3 遠隔腹膜に多数の播種性転移を認める

その他(規約第9版) 《大腸》

● 肺転移

PUL0 肺転移を認めない

PUL1 肺転移が2個以下、または片側に3個以上

PUL2 肺転移が両側に3個以上、
または癌性リンパ管炎、癌性胸膜炎、肺門部、
縦隔リンパ節転移を認める。

※肝転移、腹膜転移、肺転移いずれかが「転移あり」の場合は、
「**M1**」としてStageを決定する

ステージ(取扱い規約第9版)《大腸》

		N0	N1		N2		N3
			N1a	N1b	N2a	N2b	
Tis		0					
T1	T1a	I	Ⅲa		Ⅲa	Ⅲb	Ⅲb
	T1b						
T2			Ⅲa		Ⅲb	Ⅲb	Ⅲb
T3		Ⅱa	Ⅲb	Ⅲb	Ⅲc	Ⅲc	
T4	T4a	Ⅱb	Ⅲb	Ⅲc	Ⅲc	Ⅲc	
	T4b	Ⅱc	Ⅲc	Ⅲc			
M1	M1a	Ⅳa	Ⅳa	Ⅳa		Ⅳa	
	M1b	Ⅳb	Ⅳb	Ⅳb		Ⅳb	
	M1c	Ⅳc	Ⅳc	Ⅳc		Ⅳc	



虫垂癌の病期分類

形態コード(病理組織)《虫垂》

病理組織名(日本語)	英語表記	形態コード
良性上皮性腫瘍	<i>Benign Epithelial neoplasia</i>	
腺腫	Adenoma	8140/0
管状腺腫	Tubular adenoma	8211/0
管状絨毛腺腫	Tubulovillous adenoma	8263/0
絨毛腺腫	Villous adenoma	8261/0
鋸歯状腺腫	Serrated adenoma	8213/0
低異型度虫垂粘液性腫瘍	Low-grade appendiceal mucinous neopl. (LAMN)	8480/2
悪性上皮性腫瘍	<i>Malig. Epithelial neoplasia</i>	
腺癌	次ページ参照	
腹膜偽粘液腫	Pseudomyxoma peritonei	8480/3
杯細胞型カルチノイド	Goblet cell carcinoid	8243/3
非上皮性腫瘍	<i>Non-Epithelial tumor</i>	
平滑筋性腫瘍	Myogenic tumor	
神経性腫瘍	Neurogenic tumor	
消化管間質腫瘍	Gastrointestinal Stromal Tumor	8936/3
悪性リンパ腫	Malig. Lymphoma	

形態コード(病理組織)《虫垂》

病理組織名(日本語)	英語表記	形態コード
悪性上皮性腫瘍	<i>Malig. Epithelial neoplasia</i>	
腺癌	Adenocarcinoma	8140/3
乳頭腺癌	Papillary adenoca. (pap)	8260/3
管状腺癌	Tubular adenoca.	8211/3
～、高分化	Well differentiated type (tub1)	8211/31
～、中分化	Moderately differentiated (tub2)	8211/32
低分化腺癌	Poorly differentiated adenoca.	8140/33
充実型	Solid type (por1)	8140/33
非充実型	Non-solid type (por2)	8140/33
粘液癌	Mucinous adenoca. (muc)	8480/3
印環細胞癌	Signet-ring cell ca. (sig)	8490/3
髄様癌	Medullary ca. (med)	
腺扁平上皮癌	Adenosquamous ca. (asc)	8560/3
扁平上皮癌	Squamous cell ca. (scc)	8070/3
カルチノイド腫瘍※1	Cartinoid tumor	8240/3
内分泌細胞癌	Endocrine cell ca.	8246/3
その他	Miscellaneous epithelial malig. tumor	
絨毛癌	Choriocarcinoma	9100/3
αフェトプロテイン産生腺癌	α-fetoprotein	8140/3
未分化癌、NOS	Carcinoma, undifferentiated, NOS	8020/34

※1 カルチノイド腫瘍は、神経内分泌腫瘍として分類。

形態コード(病理組織) 《虫垂》

病理組織名(日本語)	英語表記	形態コード
上皮性腫瘍	<i>Epithelial tumours</i>	
鋸歯状病変/ポリープ	Appendiceal serrated lesions and polyps	
鋸歯状異形成、低異型度	Serrated dysplasia, low grade	8213/0
鋸歯状異形成、高異型度	Serrated dysplasia, high grade	8213/2
過形成性ポリープ	Hyperplastic polyp	—
異形成を伴わない鋸歯状病変	Sessile serrated lesion without dysplasia	—
粘液性腫瘍	Appendiceal mucinous neoplasm	
虫垂粘液性腫瘍、低異型度	Low-grade appendiceal mucinous neopl.	8480/2
虫垂粘液性腫瘍、高異型度	High-grade appendiceal mucinous neopl.	8480/2
虫垂粘液性腫瘍、虫垂外進展を伴う	App. mucinous neopl. w/ extra-app. Spread	8480/3
腺癌	Appendiceal adenocarcinoma	8140/3
粘液腺癌	Mucinous adenocarcinoma	8480/3
印環細胞癌	Signet-ring cell carcinoma	8490/3
未分化癌、NOS	Carcinoma, undifferentiated, NOS	8020/3
杯細胞腺癌	Appendiceal goblet cell adenocarcinoma	8243/3

形態コード(病理組織) 《虫垂》

病理組織名(日本語)	英語表記	形態コード
上皮性腫瘍(つづき)	<i>Epithelial tumours</i>	
神経内分泌腫瘍	Appendiceal neuroendocrine neoplasms	
神経内分泌腫瘍	Neuroendocrine tumours. NOS	8240/3
NET G1	Neuroendocrine tumour, grade 1	8240/3
NET G2	Neuroendocrine tumour, grade 2	8249/3
NET G3	Neuroendocrine tumour, grade 3	8249/3
L細胞腫瘍	L-cell tumour	8152/3
グルカゴン様ペプチド産生腫瘍	Glucagon-like peptide-producing tumour	8152/3
PP/PYY産生腫瘍	PP/PYY-producing tumour	8152/3
クロム親和性細胞カルチノイド	Enterochromaffin-cell carcinoid	8241/3
セロトニン産生腫瘍	Serotonin-producing carcinoid	8241/3
神経内分泌腫瘍(NEN)	NeuroEndocrine Neoplasm (NEN)	8240/3
カルチノイド	Carcinoid	↑
高分化内分泌癌/腫瘍	Well-diff. endocrine tumour / carcinoma	↑
神経内分泌癌	Neuroendocrine carcinoma, NOS	8246/3
大細胞神経内分泌癌	Large cell neuroendocrine carcinoma	8013/3
小細胞神経内分泌癌	Small cell neuroendocrine carcinoma	8041/3
混合型神経内分泌-非神経内分泌腫瘍	Mixed neuroendocrine-non-neuroendocrine neopl. (MiNEN)	8154/3
	Mixed adenoneuroendocrine ca. (MANEC)	↑

虫垂のLAMN

2018年症例からの変更点

2022年症例からの変更点

虫垂のLAMN (Low-grade Appendiceal Mucinous Neoplasm 低異型度虫垂粘液性新生物)

虫垂に発生する粘液性腫瘍のうち、細胞異型は軽度なのに、浸潤性のもの

2018年症例からの変更点

- **UICC TNM分類第8版**で「**Tis(LAMN)**」の分類が追加。
だが、**ICD-O-3**では、「**/1**」のため「**登録対象外**」。
浸潤している場合でも、「**LAMN**」と診断されている症例は
「**登録対象外**」(腹膜偽粘液腫は、登録対象)

2022年症例からの変更点

- **ICD-O-3.2**では、**8280/2**あるいは**8280/3**となるため、
「**登録対象**」に変更

登録時の注意点

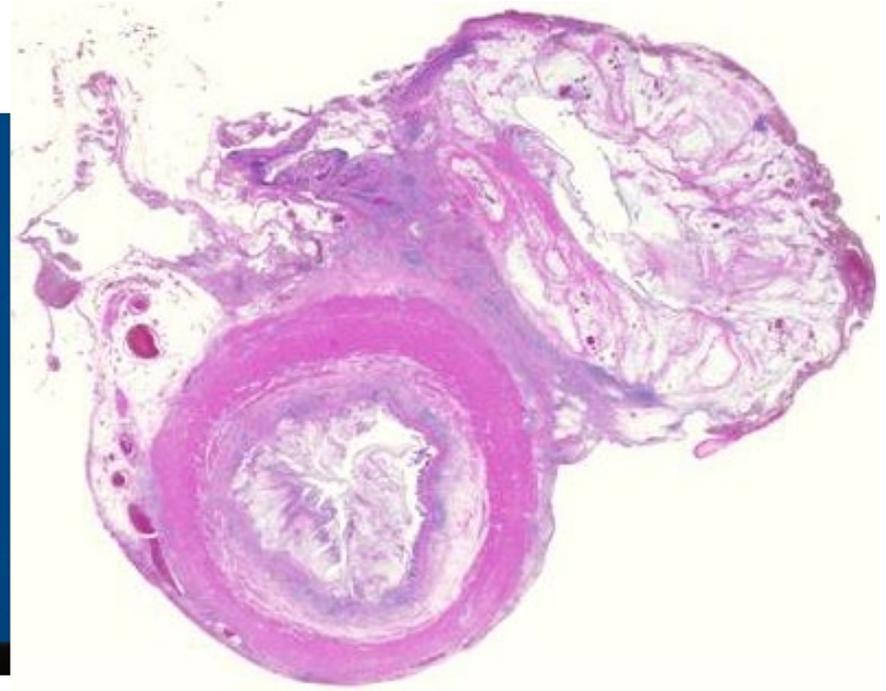
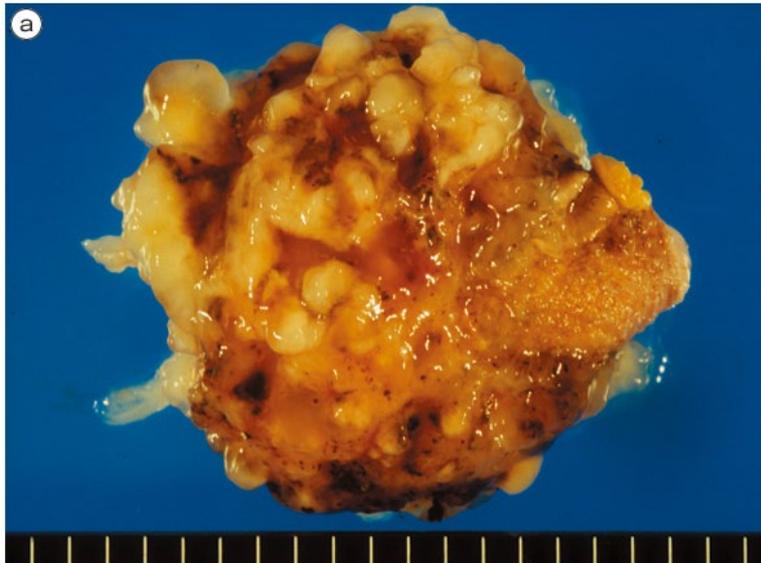
	形態コード	T分類	進展度
固有筋層までの浸潤	8480/2_ (ルールF適用)	Tis(LAMN)	上皮内
漿膜下層以深に浸潤	8480/3_	T3以上	拡がりに応じて選択

腹膜偽粘液腫

● 粘液嚢胞腺腫/腺癌

虫垂や卵巣に原発することが多いが、
診断時には原発が不明のことも多い

- 粘液を嚢胞状に貯留した腫瘤
- 悪性化することも多い



T分類(UICC第8版)

《虫垂》

Tis 上皮内癌(上皮内または粘膜固有層に浸潤) (M)

■ **Tis(LAMN)** 低悪性度虫垂粘液腫瘍(MPまで)

T1 粘膜下層に浸潤 (SM)

T2 固有筋層に浸潤 (MP)

T3 漿膜下層または虫垂間膜に浸潤 (SS)

T4 臓側腹膜を貫通 (SE)

(腹膜粘液腫瘍あるいは虫垂/虫垂間膜上の無細胞性ムチンを含む)

および/または 他の臓器・組織に浸潤 (SI)

■ **T4a** 臓側腹膜を貫通する腫瘍

(腹膜粘液腫瘍あるいは無細胞性ムチンを含む)

T4b 他の臓器または組織に直接浸潤

※ **LAMN**については、2018~21年 登録対象外(転移を伴わない場合)
2022年~ 筋層までの浸潤は**Tis(LAMN)(8480/2)**、
漿膜下層以上の浸潤は**T3以上(8480/3)**

N分類(UICC第8版)

《虫垂》

NX 領域リンパ節転移の有無が不明なもの

N0 領域リンパ節転移なし

N1 1～3個の領域リンパ節転移

N1a 1個の領域リンパ節転移

N1b 2～3個の領域リンパ節転移

N1c Tumor Deposits

N2 4個以上の領域リンパ節転移

● **領域リンパ節**

回結腸リンパ節(#201, 202, 203)

M0 遠隔転移なし

M1 遠隔転移あり

M1a 無細胞性ムチンのみを腹膜に認める

M1b 細胞成分を含む腹膜転移を認める

M1c 腹膜転移以外の遠隔転移

G1 高分化 低悪性度粘液癌

G2 中分化 高悪性度粘液癌

G3 低分化 高悪性度粘液癌

G4 未分化

GX 分化度不明

● **G1**か否かが問題

ステージ(UICC第8版)

《虫垂》

		N0		N1		N2	
		G1	G2-G4	G1	G2-G4	G1	G2-G4
Tis		0					
Tis(LAMN)		0					
T1		I		ⅢA		ⅢC	
T2		I		ⅢA		ⅢC	
T3		ⅡA		ⅢB		ⅢC	
T4	T4a	ⅡB		ⅢB		ⅢC	
	T4b	ⅡC		ⅢB		ⅢC	
M1	M1a	ⅣA		ⅣA		ⅣA	
	M1b	ⅣA	ⅣB	ⅣA	ⅣB	ⅣA	ⅣB
	M1c	ⅣC		ⅣC		ⅣC	

進展度(UICC第8版)

《虫垂》

		N0	N1	N2
Tis		上皮内		
Tis(LAMN)		上皮内		
T1		限局	領域リンパ節 転移	領域リンパ節 転移
T2		限局	領域リンパ節 転移	領域リンパ節 転移
T3		限局	領域リンパ節 転移	領域リンパ節 転移
T4	T4a	隣接臓器浸潤	隣接臓器浸潤	隣接臓器浸潤
	T4b	隣接臓器浸潤	隣接臓器浸潤	隣接臓器浸潤
M1	M1a	遠隔転移	遠隔転移	遠隔転移
	M1b	遠隔転移	遠隔転移	遠隔転移
	M1c	遠隔転移	遠隔転移	遠隔転移

大腸癌取扱い規約での虫垂癌

規約
第9版
(2018)

- 虫垂に発生した癌腫は、
UICC TNM分類 第8版に準じて分類。

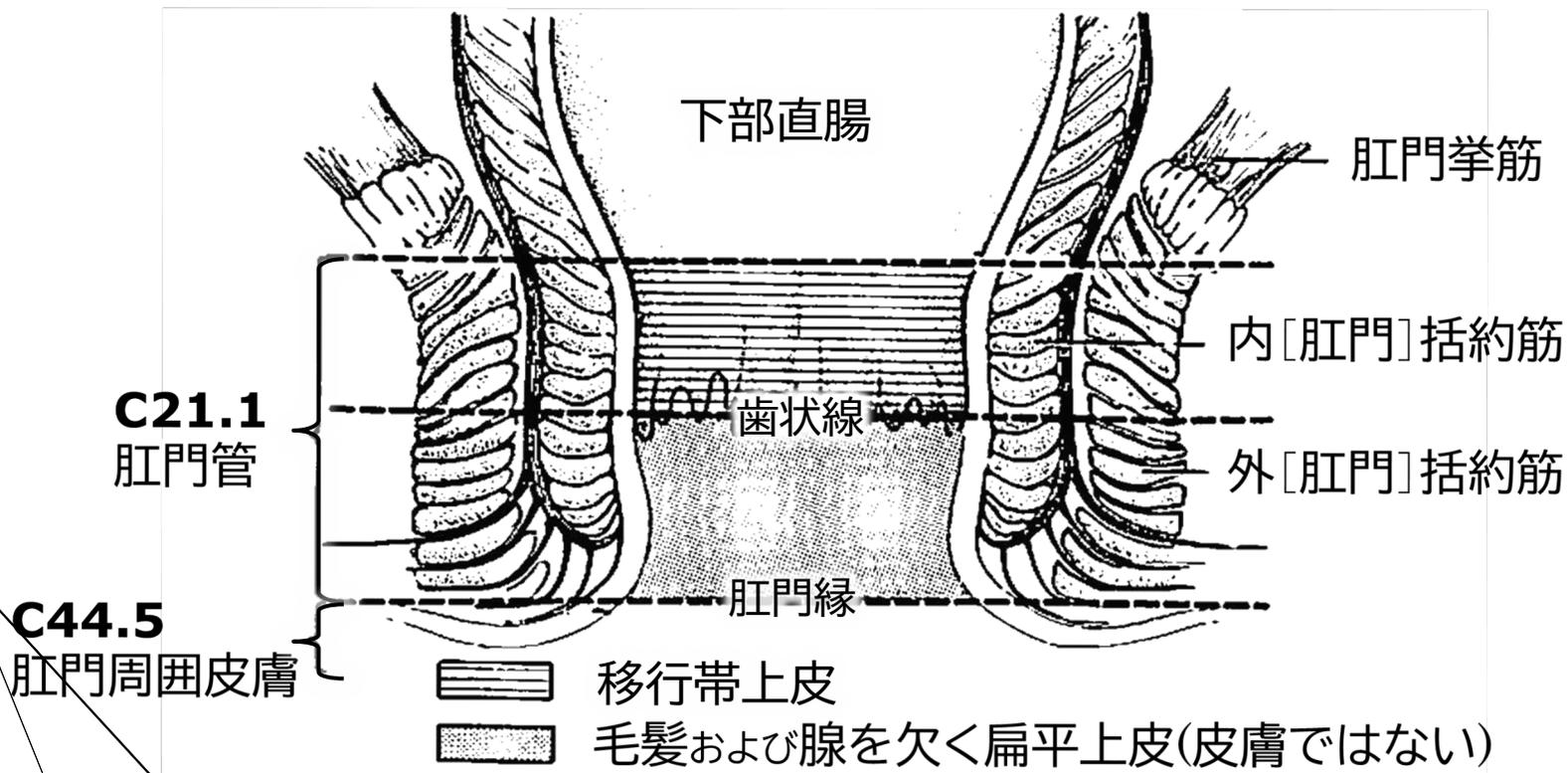


肛門管がんの病期分類

局在コード

《肛門管》

	ICD-O 局在	取扱い規約 (第9版)	診療情報所見	備考
腫瘍占拠部位	C21.1	P	肛門管	
	C44.5	E	肛門周囲皮膚	肛門縁から5cm以内の皮膚を指す



形態コード(病理組織)《肛門管》

規約
第9版
(2018)

部位別
TEXT
23/04

病理組織名(日本語)	英語表記	形態コード
高異型度上皮内腫瘍	High-grade intraepithelial neopl.	8077/2
Bowen病	Bowen's disease	8081/2
腺癌	Adenoca.	8140/3
直腸型	Rectal type	8140/3
管外型(痔瘻癌、肛門腺癌)	Extramucosal (perianal) adenoca.	8215/3
扁平上皮癌	Squamous cell ca. (scc)	8070/3
腺扁平上皮癌	Adenosquamous ca.	8560/3
神経内分泌腫瘍(カルチノイド)	Neuroendocrine tumor(NET)	
NET G1	Neuroendocrine tumour, grade 1	8240/31
NET G2	Neuroendocrine tumour, grade 2	8249/32
神経内分泌癌	Neuroendocrine carcinoma (NEC)	
大細胞神経内分泌癌	Large cell NEC	8013/3
小細胞神経内分泌癌	Small cell NEC	8041/3
悪性黒色腫	Malig. melanoma	8720/3
乳房外Paget病	Extramammary Paget disease	8542/3
悪性リンパ腫	Malig. lymphoma	9590/3

日本の肛門管癌の80%は腺癌(欧米では、大部分が扁平上皮癌)

形態コード(病理組織) 《肛門管》

病理組織名(日本語)	英語表記	形態コード
良性上皮性腫瘍、前癌状態	<i>Benign epithelial tumours and precursors</i>	
扁平上皮内腫瘍、低異型度	Squamous intraepithelial neopl., low grade	8077/0
扁平上皮内腫瘍、高異型度	Squamous intraepithelial neopl., high grade	8077/2
悪性上皮性腫瘍	<i>Malignant epithelial tumours</i>	
扁平上皮癌、NOS	Squamous cell carcinoma, NOS	8070/3
疣状扁平上皮癌	Verrucous squamous cell ca.	8051/3
腺癌、NOS	Adenoca., NOS	8140/3
神経内分泌腫瘍、NOS	Neuroendocrine tumours, NOS	8240/3
NET G1	Neuroendocrine tumour, grade 1	8240/31
NET G2	Neuroendocrine tumour, grade 2	8249/32
NET G3	Neuroendocrine tumour, grade 3	8249/33
神経内分泌癌	Carcinoma, undifferentiated, NOS	8246/3
大細胞神経内分泌癌	Large cell neuroendocrine carcinoma	8013/3
小細胞神経内分泌癌	Small cell neuroendocrine carcinoma	8041/3
MINEN	Mixed neuroendocrine-non-neuroendocrine neopl.	8154/3

T分類(UICC第8版) 《肛門管》

TX 原発腫瘍の評価が不可能

T0 原発腫瘍が認められない

Tis 上皮内癌、Bowen病、高度扁平上皮内病変(HSIL)、
肛門上皮内新生物Ⅱ-Ⅲ(AIN2-3)

T1 最大径が、2cm以下の腫瘍

T2 最大径が、2cmを越えるが、5cm以下の腫瘍

T3 最大径が、5cmを越える腫瘍

T4 大きさに関係なく、隣接臓器に直接浸潤する腫瘍

※ 直腸壁、肛門周囲皮膚、皮下組織、または括約筋のみへの浸潤は
T4に分類しない



N分類(UICC第8版) 《肛門管》

NX 領域リンパ節転移の評価が不可能

N0 領域リンパ節転移なし

N1 領域リンパ節転移あり

N1a 鼠径リンパ節、直腸間膜リンパ節、
および/または 内腸骨リンパ節転移

N1b 外腸骨リンパ節への転移

N1c 外腸骨リンパ節への転移に加えて、
鼠径リンパ節、直腸間膜リンパ節、
および/または 内腸骨リンパ節転移を伴うもの

領域リンパ節

直腸周囲、内腸骨、外腸骨、鼠径リンパ節

※ 直腸間膜リンパ節 = 傍直腸リンパ節(直腸周囲リンパ節)と考えて良い

M分類(UICC第8版) 《肛門管》

M0 遠隔転移なし

M1 遠隔転移あり

ステージ(UICC第8版) 《肛門管》

	N0	N1		
		N1a	N1b	N1c
Tis	0			
T1	I	ⅢA	ⅢA	ⅢA
T2	ⅡA	ⅢA	ⅢA	ⅢA
T3	ⅡB	ⅢC	ⅢC	ⅢC
T4	ⅢB	ⅢC	ⅢC	ⅢC
M1	Ⅳ	Ⅳ	Ⅳ	Ⅳ

進展度(UICC第8版) 《肛門管》

	N0	N1		
		N1a	N1b	N1c
Tis	上皮内			
T1	限局	領域リンパ節 転移	領域リンパ節 転移	領域リンパ節 転移
T2	限局	領域リンパ節 転移	領域リンパ節 転移	領域リンパ節 転移
T3	限局	領域リンパ節 転移	領域リンパ節 転移	領域リンパ節 転移
T4	隣接臓器 浸潤	隣接臓器 浸潤	隣接臓器 浸潤	隣接臓器 浸潤
M1	遠隔転移	遠隔転移	遠隔転移	遠隔転移

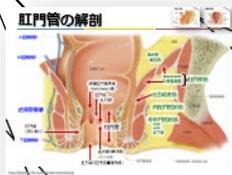
大腸癌取扱い規約での 肛門管癌

- 扁平上皮癌、肛門腺癌、痔瘻癌については、
UICC TNM分類 第**8**版に準じて分類。
- 直腸型腺癌については、
規約独自の病期分類を行う。

壁深達度(規約第9版)《直腸型腺癌》

規約
第9版
(2018)

- TX** 壁深達度の評価ができない
- T0** 癌を認めない
- Tis** 癌が粘膜内にとどまる
- T1** 癌が粘膜下層までにとどまり、内括約筋に及んでいない
 - T1a** 癌が粘膜下層までにとどまり、浸潤距離が1000 μ m未満
 - T1b** 癌が粘膜下層までにとどまり、浸潤距離が1000 μ m以上
- T2** 癌が内括約筋に及ぶが、連合縦走筋までにとどまる
- T3** 癌が連合縦走筋を越えて浸潤する
- T4** 癌が肛門挙筋 または 隣接臓器に浸潤している



領域リンパ節転移(規約第9版)《直腸型腺癌》

- 腫瘍占拠部位と血管の関係により、
腸管傍リンパ節、中間リンパ節、主リンパ節、側方リンパ節に区分
- N0** リンパ節転移なし
- N1** 腸管傍と中間リンパ節の転移総数が**3**個以下
 - N1a** 転移個数が**1**個
 - N1b** 転移個数が**2-3**個
- N2** 腸管傍と中間リンパ節の転移総数が**4**個以上
 - N2a** 転移個数が**4-6**個
 - N2b** 転移個数が**7**個以上
- N3** 主リンパ節 あるいは 側方リンパ節に転移

遠隔転移 (規約第9版) 《直腸型腺癌》

M0 遠隔転移を認めない。

M1 遠隔転移を認める。

M1a 1臓器に遠隔転移を認める。

M1b 2臓器以上に遠隔転移を認める。

M1c 腹膜転移を認める

M1c1 腹膜転移のみ

M1c2 腹膜転移と他臓器転移

※ 肝転移、肺転移、腹膜転移の場合は、それぞれの転移程度を付記する。

その他(規約第9版)《直腸型腺癌》

●肝転移

H0 肝転移を認めない

H1 肝転移4個以下かつ最大径が**5cm**以下

H2 **H1**、**H3**以外

H3 肝転移巣**5**個以上かつ最大径が**5cm**を超える

●腹膜転移

P0 腹膜転移を認めない

P1 近接腹膜にのみ播種性転移を認める

P2 遠隔腹膜に少数の播種性転移を認める

P3 遠隔腹膜に多数の播種性転移を認める

その他(規約第9版)《直腸型腺癌》

● 肺転移

PUL0 肺転移を認めない

PUL1 肺転移が**2**個以下、または片側に**3**個以上

PUL2 肺転移が両側に**3**個以上、
または癌性リンパ管炎、癌性胸膜炎、肺門部、
縦隔リンパ節転移を認める。

※肝転移、腹膜転移、肺転移いずれかが「転移あり」の場合は、
「**M1**」としてStageを決定する

ステージ(規約第9版) 《直腸型腺癌》

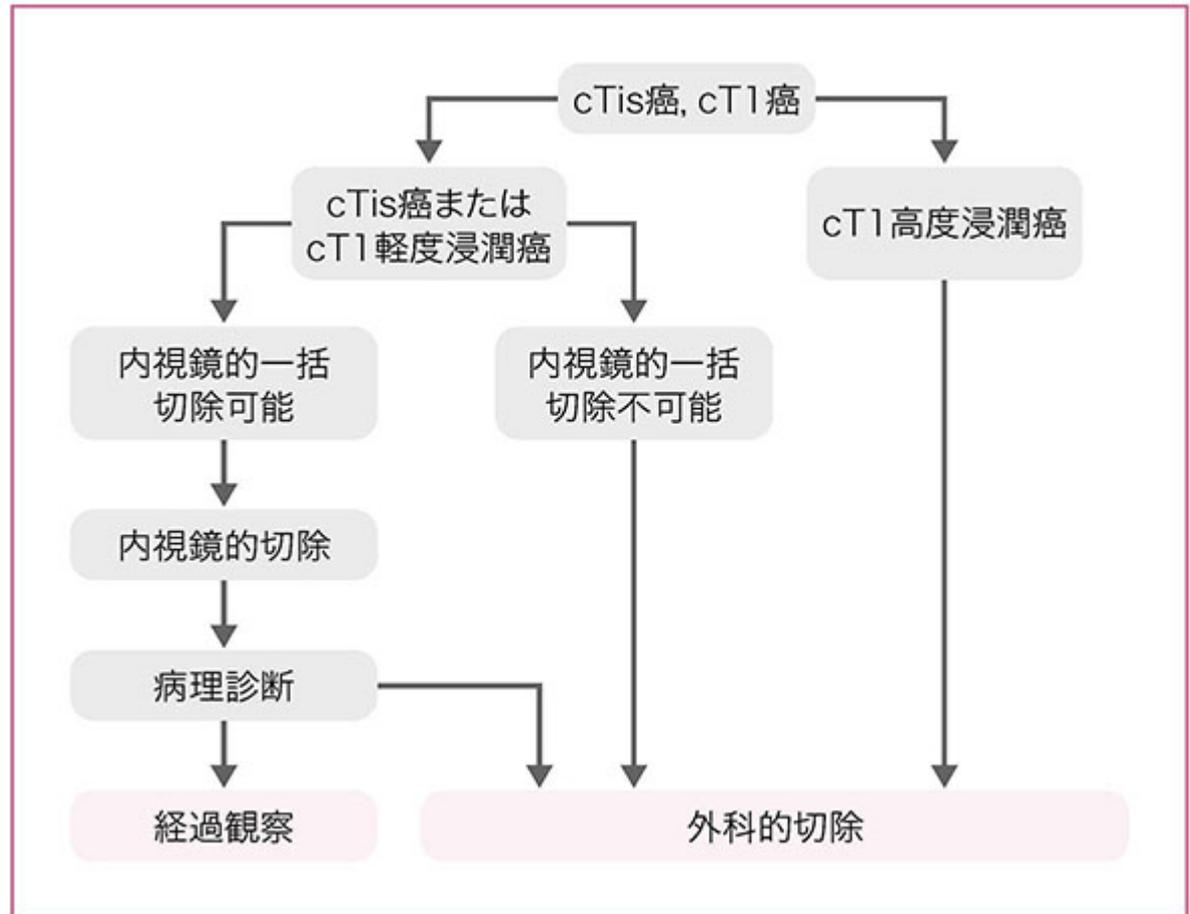
規約
第9版
(2018)

		N0	N1		N2		N3
			N1a	N1b	N2a	N2b	
Tis		0					
T1	T1a	I	Ⅲa		Ⅲa	Ⅲb	Ⅲb
	T1b						
T2			Ⅲa		Ⅲb	Ⅲb	Ⅲb
T3		Ⅱa	Ⅲb		Ⅲb	Ⅲc	Ⅲc
T4	T4a	Ⅱb	Ⅲb		Ⅲc	Ⅲc	Ⅲc
	T4b	Ⅱc	Ⅲc				
M1	M1a	Ⅳa	Ⅳa		Ⅳa		Ⅳa
	M1b	Ⅳb	Ⅳb		Ⅳb		Ⅳb
	M1c	Ⅳc	Ⅳc		Ⅳc		Ⅳc

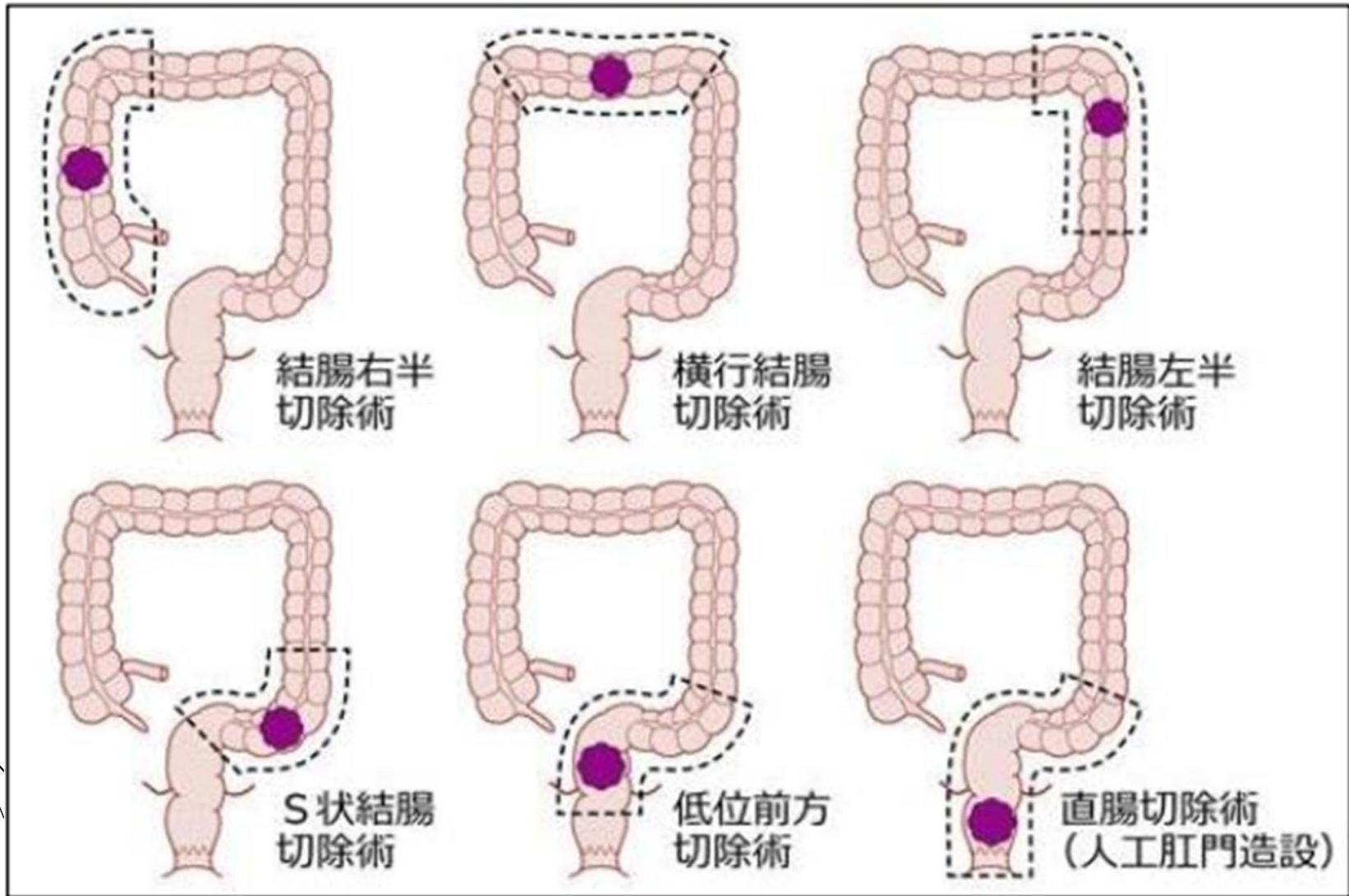
大腸癌の治療方針（観血的治療）

- **cT1**までは、
 - 内視鏡的切除
 - 外科的切除
- **cⅢ期**までは
 - 外科的切除
- **cⅣ期**の場合
 - 切除可能なら外科的切除（転移巣も）

〔cTis 癌または cT1 癌の治療方針〕



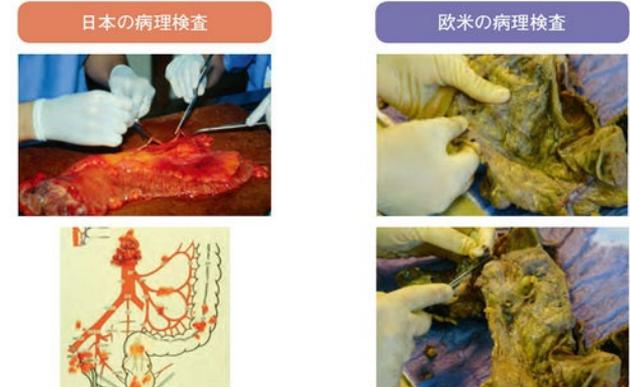
大腸癌の外科的治療



観血的治療(日本の特殊性)

- リンパ節郭清
- 放射線治療(直腸)

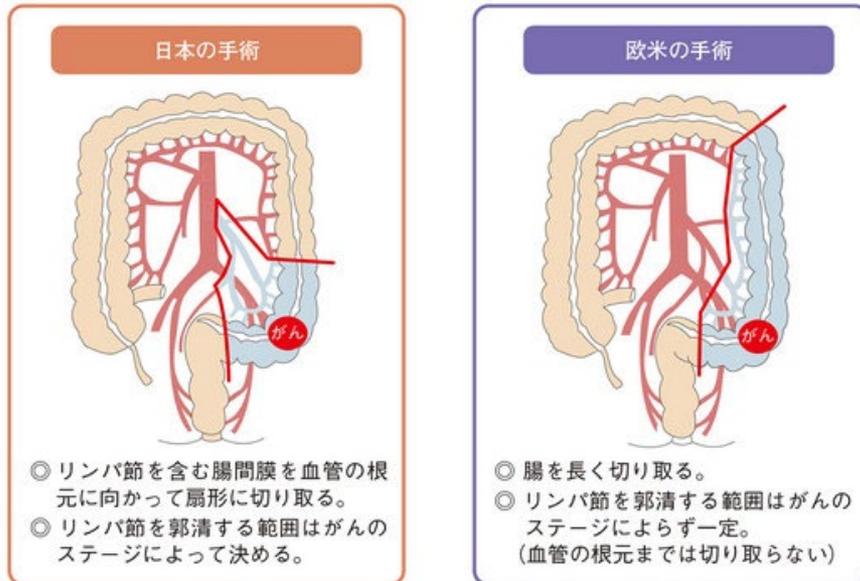
図 14 日本と欧米の病理検査の違い



腸間膜からリンパ節を1つずつ掘り出して調べる。

ホルマリン固定した腸間膜を指で触って、触れたリンパ節だけ調べる。

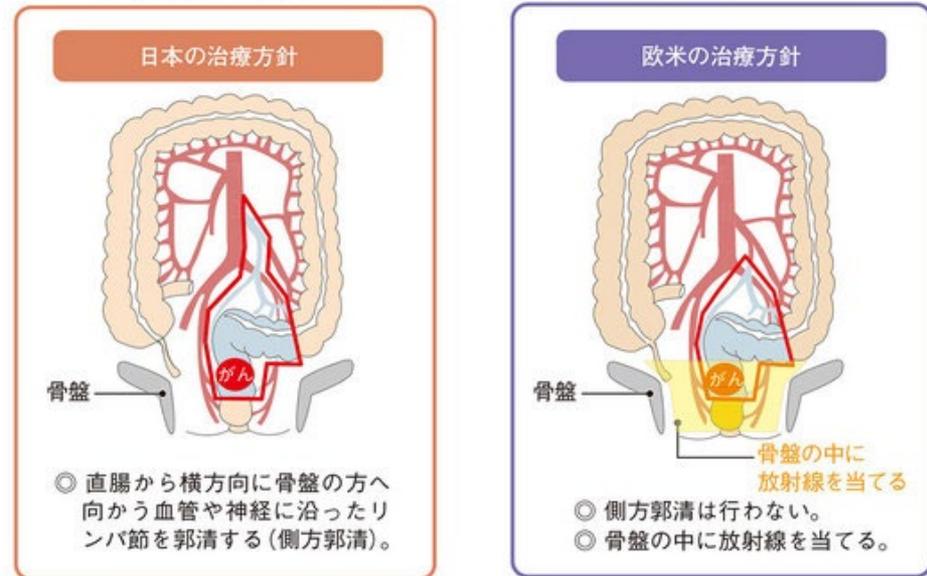
図 12 日本と欧米の大腸がん手術の違い



- リンパ節を含む腸間膜を血管の根元に向かって扇形に切り取る。
- リンパ節を郭清する範囲はがんのステージによって決める。

- 腸を長く切り取る。
- リンパ節を郭清する範囲はがんのステージによらず一定。(血管の根元までは切り取らない)

図 13 日本と欧米の直腸がん治療の違い *主に進行がんの場合



- 直腸から横方向に骨盤の方へ向かう血管や神経に沿ったリンパ節を郭清する(側方郭清)。

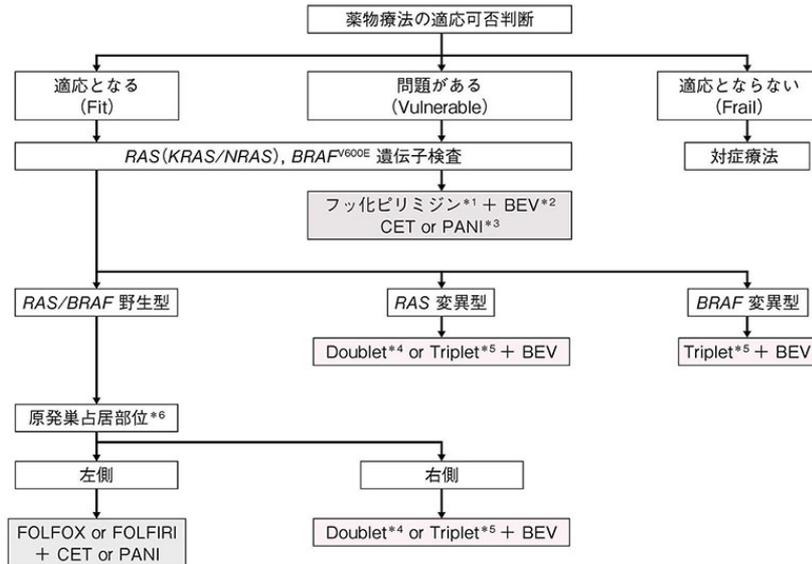
- 側方郭清は行わない。
- 骨盤の中に放射線を当てる。

大腸癌の治療方針（化学療法）

●術後化学療法を含め、さまざまな選択肢

一次治療の方針を決定するプロセス

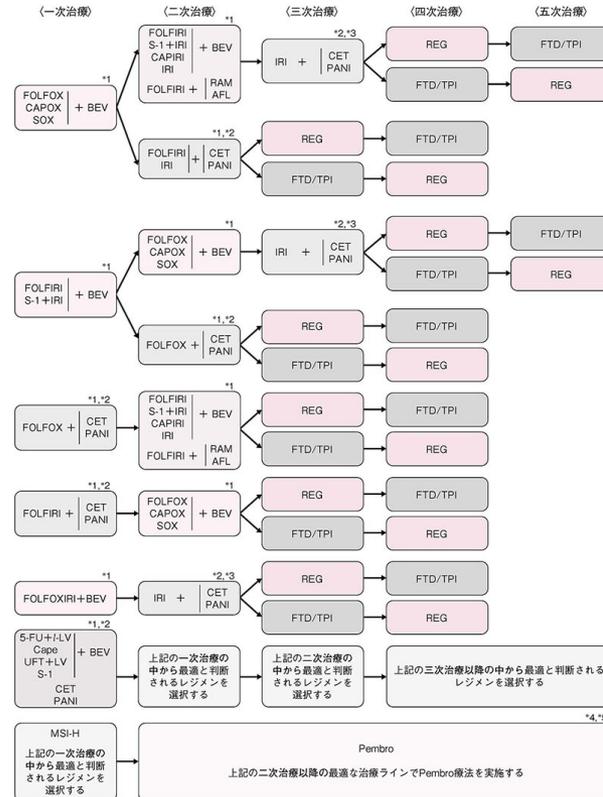
図中のレジメン以外の治療を選択することも可能である。「臨床試験において有用性が示されており、かつ保険診療として国内で使用可能なレジメン」の項（37ページ）を参照。



BEV : bevacizumab, CET : cetuximab, PANI : panitumumab

- *1 : フッ化ピリミジン : 5-FU+t-LV, UFT+LV, S-1, Cape
- *2 : BEV の併用が推奨されるが、適応とならない場合はフッ化ピリミジン単独療法を行う。
- *3 : CET, PANI は RAS (KRAS/NRAS) 野生型にのみ適応。
- *4 : Doublet : FOLFOX, CAPOX, SOX, FOLFIRI, S-1+IRI
- *5 : Triplet : FOLFOXIRI
- *6 : 腫瘍占居部位の左側とは下行結腸, S 状結腸, 直腸, 右側とは盲腸, 上行結腸, 横行結腸を指す。

切除不能進行再発大腸癌に対する薬物療法のアルゴリズム



BEV : bevacizumab, RAM : ramucirumab, AFL : aflibercept beta, CET : cetuximab, PANI : panitumumab, REG : regorafenib, FTD/TPI : trifluridine/tipiracil hydrochloride, Pembro : pembrolizumab

- *1 : BEV, RAM, AFL, CET, PANI などの分子標的治療薬の併用が推奨されるが、適応とならない場合は化学療法単独を行う。
- *2 : CET, PANI は RAS (KRAS/NRAS) 野生型にのみ適応。
- *3 : IRI 不副でなければ IRI を併用するのが望ましい。
- *4 : Pembro は MSI-H にのみ適応。
- *5 : 実際の投与に関しては、添付文書や最善使用推進ガイドラインなどを参考に、全身状態や病状などを考慮して、適正使用に努めること。

多重がんルール

《大腸》

多重がんルール

《大腸》

	ルール番号	ルールの概要	判定
	M1-2	腫瘍個数不明 / 単一腫瘍	単発
複数	M3	大腸腺腫性ポリポージス(FAP)	単発
複数	M4	局在コード(2~3桁目)	多重
複数	M5	別表右枠 亜型/変異型	多重
複数	M6	別表 異なる太枠	多重
複数	M7-8	吻合部再発	多重/単発
複数	M9	局在コード(4桁目)	多重
複数	M10	臨床的再発なし→1年ルール	多重
複数	M11	別表 同じ太枠	単発
複数	M12	浸潤癌→上皮内癌	単発
複数	M13-14	上皮内癌→浸潤癌 60日ルール	単発/多重
複数	M15	上記以外	単発

基本ルール 《大腸》

- 該当部位:

C180-C189、C199、C209

盲腸～S状結腸

S状・直腸部

直腸

- 対象外

悪性リンパ腫・白血病

M9590-M9992

カポジ肉腫

M9140

多重がんルール 《大腸》

● 該当部位:

C180-C189、C199、C209

■ 対象外

悪性リンパ腫・白血病
カポジ肉腫

M9590-M9992
M9140

腫瘍数	ルール	項目内容		決定
不明	M1	単一腫瘍か複数腫瘍かが不明	⇒ はい	単発
おきまり ルール		● 全ての情報を使用しても不明の場合に適用する。		
		↓いいえ		
単一	M2	単一腫瘍である	⇒ はい	単発
おきまり ルール		● 単一腫瘍は常に単発として扱う。 ● 隣接部位/亜部位にまたがる場合を含む。 ● 複数の組織型を持つものを含む。		
		↓いいえ		

多重がんルール 《大腸》

腫瘍数	ルール	項目内容		決定				
複数	M3	<p>大腸腺腫性ポリポージス(家族性大腸腺腫症;FAP)と診断、またはFAPとは診断されていないが、以下の両方を満たす場合、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・100個以上のポリープが存在 ・腺癌(上皮内癌「/2」を含む)が少なくとも1つのポリープに存在 	⇒ はい	単発				
		<ul style="list-style-type: none"> ● FAPは、100個以上のポリープ(腺癌と良性ポリープ)を持つ患者で診断される。 ● 直腸や結腸の複数の部位に、1) ポリープ内腺癌(上皮内「/2」を含む)が存在、2) ポリープの一部に悪性所見が見られる、3) de novo癌(ポリープ内からの発生でない新規の癌)が存在する などの場合。 また、ポリープは胃など他の消化管にも存在することがある複数の組織型を持つものを含む。 ● 原発部位には、以下のコードをつける。 <table border="0" style="width: 100%;"> <tr> <td>1) 結腸の2部位以上: C189、</td> <td>2) 結腸と 直腸または直腸S状部: C199</td> </tr> <tr> <td>3) 結腸と小腸: C260、</td> <td>4) 結腸と小腸(直腸を含む可能性があるとき): C269</td> </tr> </table> 	1) 結腸の2部位以上: C189 、	2) 結腸と 直腸または直腸S状部: C199	3) 結腸と小腸: C260 、	4) 結腸と小腸(直腸を含む可能性があるとき): C269		
1) 結腸の2部位以上: C189 、	2) 結腸と 直腸または直腸S状部: C199							
3) 結腸と小腸: C260 、	4) 結腸と小腸(直腸を含む可能性があるとき): C269							
		↓いいえ						
複数	M4	<p>局在コードの2～3桁目(CXXX)、1つ以上が異なる非連続的な腫瘍</p>	⇒ はい	多重				
		<ul style="list-style-type: none"> ● 局在コードが異なる非連続の腫瘍:重なったり互いに連続していない、少なくとも二つ以上の悪性腫瘍を指す。 ● 結腸の異なる亜部位にある、別の非連続の腫瘍を、それぞれ登録する。 ただし、C189:結腸 NOSには、適用しない。 						
		↓いいえ						

多重がんルール 《大腸》

腫瘍数	ルール	項目内容		決定
複数	M5	<p>同時性・異時性発生を問わず、互いに非連続である複数の腫瘍の組織型が、「同義語と定義の表」中の右列で、互いに異なる亜型/変異型である</p>	⇒ はい	多重
		<p>● 腫瘍の組織型は、互いに同じNOSの組織型の亜型/変異型でも、異なる NOSの組織型の亜型/変異型でも本ルールを適用し、多重と登録する。</p>		右枠: 詳細分類
		↓いいえ		
複数	M6	<p>同時性・異時性発生を問わず、互いに非連続である複数の腫瘍の組織型が、「同義語と定義の表」で、異なる太枠に属している。</p>	⇒ はい	多重
		<p>● 腫瘍の性状コードは同じである必要がある。一つの腫瘍が上皮内癌で、他の腫瘍が浸潤癌であった場合、本ルールを適用しない。</p> <p>● 「同じ太枠」とは、以下のいずれかを指す。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● すべての腫瘍が同じ組織型(4桁の同じICD形態コード)のとき。 ● 1つの腫瘍の組織型が表中左列に該当し、他の組織型がその同義語(中列)に該当する。 ● 1つの腫瘍の組織型がいずれかのNOS(左列あるいは中列)に該当し、他の腫瘍がそのNOSの亜型/変異型(同じ太枠内の右列)に該当する。 <p>● 腫瘍はde novo癌 と ポリープ内癌の組み合わせであってもよい。</p> <p>● 腫瘍は多発性のポリープ内腺癌でもよい。</p>		太枠: 大まか分類
		↓いいえ		

多重がんルール 《大腸》

腫瘍数	ルール	項目内容		決定
複数	M7 吻合部再発	<p>2つ目の腫瘍が吻合部に発生し、かつ以下のいずれかの場合</p> <ol style="list-style-type: none"> 1つ目の腫瘍がいずれかのNOSで、 吻合部の腫瘍がそのNOSの亜型/変異型 1つ目の腫瘍切除後、 吻合部の腫瘍が満24か月を超えた後に発生 吻合部の腫瘍が粘膜内から発生 (3)は粘膜内から発生しないと考えられる GISTには適用しない) 	⇒ はい	多重
		<ul style="list-style-type: none"> ● 医師は、術後吻合部に発生した腫瘍を”吻合部再発”と表現することがあるので、注意すること。 ● 吻合部腫瘍が大腸壁や周囲組織に浸潤した場合も含む。 ● 本ルールは階層的であるため、M1～M6が該当しない場合にM7を適用すること。 		
		↓いいえ		
複数	M8 吻合部再発	<p>2つ目の腫瘍が吻合部に発生し、かつ以下のいずれかの場合</p> <ol style="list-style-type: none"> 1つ目の腫瘍切除後、吻合部の腫瘍が24か月以内に発生 吻合部の腫瘍が大腸壁および/または周囲組織から発生し、 粘膜を巻き込んでいない 病理医や臨床医が、「吻合部再発」と記載している 	⇒ はい	単発
		<ul style="list-style-type: none"> ● 医師は、治療法選択のため、2つ目の腫瘍に対しても病期分類をすることがあるが、本ルールを適用して単発として登録する。 		
		↓いいえ		

多重がんルール 《大腸》

腫瘍数	ルール	項目内容		決定
複数	M9	ICD-O局在コード4桁目(C18X)が異なる、互いに非連続な複数腫瘍である。	⇒ はい	多重
		<ul style="list-style-type: none"> ● “局在コード4桁目が異なる”とは、結腸の異なる亜部位の場合を含む。その場合も、両者を多重癌として登録する。ただしこのルールは結腸NOS C189には適用しない。 		
		↓いいえ		
複数	M10	1つ目の腫瘍あるいは最後の再発腫瘍の診断から 満1年 を越える間、臨床的に再発を認めず (clinically disease-free)、その後、新たな腫瘍が発生した。	⇒ はい	多重
		<ul style="list-style-type: none"> ● 臨床的に再発を認めない”(clinically disease-free)とは、大腸内視鏡検査、あるいはCT・MRI等の画像検査で、経過観察中に再発所見を認めない状態を指す。 ● 1つ目の腫瘍あるいは最後の再発腫瘍の診断日から1年以内に再発した場合、次の腫瘍の診断までの間隔はリセットされ、再発腫瘍が診断された時点から計算する。 ● 初回治療がポリペクトミーのみの場合、本ルールは、1年を超えて再発がない場合に適用。 ● 初回治療が結腸切除術や腹会陰式切除術だった場合、本ルールは1年を超えて吻合部再発がない場合に適用される。 ● 診療記録上、再発に関する記載がない、もしくは不明な場合は、腫瘍の診断日が当該間隔を計算する基準日となる。 ● 医師は、対象患者は過去に大腸癌に罹患したという意味で、後の腫瘍に対して「再発」と記載することがあるが、医師の記載を採用せず、本ルールに従うこと。 		
		↓いいえ		

再発腫瘍
1年ルール

多重がんルール 《大腸》

腫瘍数	ルール	項目内容		決定
複数	M11	<p>同時性・異時性発生を問わず、互いに非連続である複数の腫瘍の組織型が、「同義語と定義の表」において、同じ太枠に属している</p>	⇒ はい	単発
		<p>● 腫瘍の性状コードは同じである必要がある。 一つの腫瘍が上皮内癌で、他の腫瘍が浸潤癌であった場合、本ルールを適用しない。</p> <p>● 「同じ太枠」とは、以下のいずれかを指す。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● すべての腫瘍が同じ組織型(4桁の同じICD形態コード) ● 1つの腫瘍の組織型が表中左列に該当し、他の腫瘍の組織型がその同義語(中列)に該当する。 ● 1つの腫瘍の組織型がいずれかのNOS(左列あるいは中列)に該当し、他の腫瘍がそのNOSの亜型/変異型(同じ太枠内の右列)に該当する。 <p>● 腫瘍はde novo癌とポリープ内癌の組み合わせであってもよい。</p> <p>● 腫瘍は多発性のポリープ内腺癌でもよい。</p>		
		↓いいえ		
複数	M12	<p>浸潤癌の診断後、上皮内癌と診断された(この場合、浸潤癌を登録する)</p>	⇒ はい	単発
		<p>● 本ルールは階層的であり、M1～M11が該当しない場合に適用すること。</p> <p>● 腫瘍はいずれかのNOSとそのNOSの亜型/変異型であってもよい。</p>		
		↓いいえ		

太枠:大まか分類

浸潤→上皮内

多重がんルール 《大腸》

腫瘍数	ルール	項目内容		決定
複数	M13	上皮内癌の診断後、 60日 以内に浸潤癌を認めた	⇒ はい	単発
	上皮内→浸潤 60日ルール	<ul style="list-style-type: none"> ● このルールでは、上皮内癌と浸潤癌が同時に診断された場合を含む。 ● これらは、同じ腫瘍の多発病変と考え、以下のように登録する。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 診断日は最も早い診断日である上皮内癌の診断日を登録する。 ・ 局在、組織型、病期、進展度は、より進展している浸潤癌の情報を優先して登録する（病期分類は上皮内癌の診断日時点で採用していた分類を用いる）。 ・ 初回治療情報は、各病変に対して行われた治療をすべて登録する。 ● 医師は、両腫瘍に対して、最適な治療法の選択や疫学研究上の理由から、病期分類や多重との判定を行うことがある。その場合でも本ルールを適用する。 		
		↓いいえ		
複数	M14	上皮内癌の診断後、 60日 を超えて浸潤癌が診断	⇒ はい	多重
	上皮内→浸潤 60日ルール	<ul style="list-style-type: none"> ● 浸潤癌、上皮内癌、ともに登録対象となる。 ● 後の浸潤癌に対し、医師が再発あるいは増悪と記載した場合でも、「多重」として登録。 ● 本ルールは、腫瘍再発に関する疫学研究結果に基づき設定され、医学的専門家に承認されている。 		
		↓いいえ		
複数	M15	上記のいずれも当てはまらない	⇒ はい	単発
		<ul style="list-style-type: none"> ● 上位のルールがすべて適用できない場合のみ、適用する。 		

多重がんルール別表

《大腸》

《左列》 特異的/NOSの組織型		《中列》 左の同義語	《右列》 左/中列の亜型/変異型
コード	表現用語		
8140	Adenoca.	Adenoca., NOS Adenoca./ca. in a polyp NOS Adenoca./ca. in adenomatous polyp Adenoca./ca. in polypoid adenoma Adenoca./ca. in serrated adenoma Adenoca. and mucinous ca. Adenoca. and signet ring cell ca. Adenoca./ca. in tubular polyp Adenoca./ca. in tubulovillous polyp Adenoca./ca. in villous adenoma Adenoca. in any type of polyp Adenoca., intestinal type Adenoca. and cribriform ca. Adenoca. with mucinous and signet ring cell features Adenoma Comedoca. Intestinal adenoca.	Undifferentiated adenoca./ ca. Adenoid cystic ca. Cribriform comedo-type ca. / adenoca., cribriform comedo-type Diffuse adenoca./ ca. Linitis plastica Medullary adenoca./ ca. Micropapillary carcinoma Mucinous/colloid adenoca./ ca. Mucoepidermoid ca. Serrated Adenoca. Signet ring cell /poorly cohesive adenoca./ ca. Superficial spreading adenoca. Tubulopapillary ca. Tubular adenoca. ≪訳注≫ Tubular adenoca.は 本邦で独自に使用される組織型である。 多重がん判定を行うにあたり、 必要と考えられるため補足した。

多重がんルール別表

《大腸》

《左列》 特異的/NOSの組織型		《中列》 左の同義語	《右列》 左/中列の亜型/変異型
コード	表現用語		
8560	adenosquamous ca.	Mixed adenoca. NOS and epidermoid ca. Mixed adenoca. NOS and squamous cell ca.	
8045	Combined small cell carcinoma	Small cell ca. mixed with adenoca. Small cell ca. mixed with neuroendocrine ca. Small cell ca. mixed with any other type of ca./ adenoca.	
8153	Gastrinoma		
8936/3	Gastrointestinal stromal tumor classified as malignant	Gastrointestinal stromal tumor, malignant GIST, malignant	

多重がんルール別表

《大腸》

《左列》 特異的/NOSの組織型		《中列》 左の同義語	《右列》 左/中列の亜型/変異型
コード	表現用語		
8244	Mixed adeno- neuroendocrine ca.	Adenoca. mixed with high-grade large cell neuroendocrine ca. Adenoca. mixed with high-grade small cell neuroendocrine ca. Any carcinoid mixed with neuroendocrine ca. MANEC	
8246	Neuroendocrine ca.	NEC	
8240	Neuroendocrine tumor Grade 1		
8800/3	Sarcoma NOS		
8032	Spindle cell ca.		
8070	Squamous cell carcinoma	Epidermoid ca. NOS Squamous cell ca. NOS Squamous cell epithelioma	

下部消化管 修正箇所

- 44～ 48 形態コード(病理組織) 《結腸・直腸》
- 72～ 75 形態コード(病理組織) 《虫垂》
- 105～117 多重がんルール 《大腸》